

目 次

巻頭言

- 3 地域看護学のさらなる発展

河野あゆみ

原 著

- 4 地域で暮らす独居高齢者のアドバンス・ケア・プランニング (ACP) に
関連する民生委員の体験

福井菜月・清水真由美・関根由紀

- 13 都道府県の本庁勤務保健師の事業化・施策化能力獲得に関する経験項目
増田さゆり・石川麻衣・佐藤由美

研究報告

- 22 特定保健指導に繰り返し参加している壮年期男性の行動変容を促す保健師の
支援内容

吉田裕美・田口敦子

- 31 保健師を対象とした複合課題をもつ家族アセスメント映像教材の制作と評価
中谷久恵

- 40 公営住宅居住高齢者が生活を継続することに関する意識
佐藤太地・石田千絵・井口 理

- 49 地域包括支援センター看護職が行う独居高齢者の安否確認に関わる
アセスメントの様相
山村典弘・都筑千景・田中健太郎

- 59 小規模自治体における地域ケア会議への継続的な参加体験
藤井智子・塩川幸子・水口和香子

- 70 高齢ストーマ保有者の社会参加に関連する要因の検討
宮崎 梓

委員会報告

- 78 2024年度日本地域看護学会研究セミナー地域看護研究に生成AIをいかに
活用するか
研究活動推進委員会

- 87 看護師に必要な地域関連看護能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容
(暫定版)
地域看護関連学会合同委員会

Contents

Preface

- 3 Further Development of Community Health Nursing
Ayumi Kouno

Original Articles

- 4 Experiences Relating to Advance Care Planning (ACP) of Commissioned Welfare
Volunteers Supporting Older People Living Alone in Their Communities
Natsuki Fukui, Mayumi Shimizu, Yuki Sekine
- 13 Experience Items Related to Acquiring Program Development and Policy-making
Competencies by Public Health Nurses Working at a Prefectural Government Office
Sayuri Masuda, Mai Ishikawa, Yumi Sato

Research Reports

- 22 Supportive Methods of Public Health Nurses to Promote Behavioral Change
in Middle-aged Men Who Participate in Specific Health Guidance
for Preventing Lifestyle-related Diseases at Least Twice
Hiromi Yoshida, Atsuko Taguchi
- 31 Development and Evaluation of Family Assessment Video Teaching Materials
with Complex Issues for Public Health Nurses
Hisae Nakatani
- 40 Attitudes of Older Public Housing Residents toward Daily Life
Following a Major Earthquake
Taichi Sato, Chie Ishida, Aya Iguchi
- 49 Analyzing the Aspects of Safety Confirmation and Difficulty for Single Older Adult
Residents
Norihiro Yamamura, Chikage Tsuzuki, Kentaro Tanaka
- 59 Ongoing Participation in Community Care Conferences in a Small Municipality
Tomoko Fujii, Sachiko Shiokawa, Wakako Mizuguchi
- 70 Review of the Factors Associated with Social Participation in Older People with a
Stoma.
Azusa Miyazaki

Committee Reports

- 78 How to Use Generated AI in Community Nursing Research
The Committee on Research Promotion
- 87 Essentials of Community-based Nursing Competency for Nurses and Bachelor's
Degree Program Graduation Objectives & Educational Content (Provisional
Version)
Joint Committee on Community Nursing-Related Societies

JACHN News

93

Editor's Note

- 117 *Mina Ishimaru*

巻頭言

地域看護学のさらなる発展
——活力ある学術コミュニティへの道——

河野あゆみ

大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野

日本地域看護学会誌, 28 (2) : 3, 2025

2025～2026年度、2年間の新しい理事体制が始まり、私は今期の理事長に就任することとなった。大変光栄に思うと同時に、学会の方向性を舵取りする大役を拝命したことに身の引き締まる思いである。

日本地域看護学会は、1997年10月に発足し、やがて30年目を迎える学会である。50以上ある看護系学会のなかでも歴史ある学会といえる。私自身も教育研究者としての仕事を務めるようになり、約30年である。思えば、本学会の第3回学術集会事務局長を務めたことをはじめ、第23回学術集会長や数多くの多様な学会活動に参加させていただいた。そのような学会活動で知り合ったさまざまな会員の方々との有形無形の交流に支えられ、これまで教育研究者としての仕事を続けてこられたことに、感謝している。少し前に、ある海外の学会に参加したときに、その学会のプレジデントが「私たちは同じ学問を志す友人であり、兄弟であり、家族である」という挨拶をされていたことが印象深い言葉として、記憶に残っている。振り返ってみれば、私たちは、「学会」というコミュニティに属しながら、さまざまに育てていただいているのだと思う。これからの看護を担う若い世代の方々が看護学にコミットし、健やかに看護学を発展させていけるように、この学会に集う方々のニーズにあった活力ある学術コミュニティをつくることに務めて参りたい。

地域看護学は、多様な場で生活する、さまざまな健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。また、地域看護実践には、その時代のニーズに応じて、常に進化し続ける特性がある。地域においては、実践を提供する職種・機関などの体制は一時的なものにすぎず、社会の動向やニーズに合わせて、地域看護実践は常に進化するものであると、とらえている。したがって、本学会には、①地域看護実践から新たな知を得ること、②地域看護実践に対して、新たな根拠や影響を与える知を産生することを繰り返しながら普遍的な学術基盤をつくり、看護学を発展させる重要な役割があると考えている。

一方、教育機関に所属する会員が多い本学会では、看護基礎教育課程や保健師教育課程のあり方について大きく関心が寄せられ、長らく議論してきた背景がある。看護を担うのは「ひと」であるため、看護基礎教育のなかでどのような人材を育てるかは、看護の質を決める重要なポイントである。本学会では、人材育成の観点からも地域看護学をどう発展させていくのか、引き続き考えていきたい。

今期は、これまでの蓄積や強みを活かしながら、地域看護学の学術・研究活動を推進する。また、看護基礎教育における地域看護学の体系化のほか、広報活動の強化に努めることで、成熟期にある本学会のさらなる発展を目指す。本学会が活力ある学術コミュニティとして、一丸となって発展できるよう、会員のみなさまには、これまで以上にお力添えとご協力を賜りたくお願いするものである。

日本地域看護学会委員会報告

2024年度日本地域看護学会研究セミナー 地域看護研究に生成AIをいかに活用するか

2023～2024年度研究活動推進委員会

日本地域看護学会誌, 28(2): 78–86, 2025

I. はじめに

近年、生成AIの発展はめざましく、看護分野でもその活用が注目されている。特に、地域看護研究においては、地域におけるデータの収集や分析、地域の課題に即したケアモデルの開発など、多様な可能性が広がっている。また、研究を推進するうえでの日ごろの業務においても、生成AIの活用によって、業務の効率化が期待される。他方で、生成AIの存在は知りつつも実際に使ったことはない、あるいはめまぐるしい進化のスピードについていけない、もっと効率よく使いたいという思いを抱いている地域看護学の研究者も多いのではないだろうか。そこで、本セミナーでは、生成AIなどの研究に取り組んでいる平先生をお招きして、地域看護学の研究に生成AIをいかに活用するかをご講演いただくことにした。

II. 研究セミナーの概要

1. 講師

京都大学医学研究科人間健康科学専攻・助教の平和也先生を講師にお迎えした。平先生は、奈良県の保健師としての経験をおもちである。現在は、公衆衛生学と情報学のハイブリット領域、インターネット検索エンジンなどのWEBログデータを用いて、政策指標の予測モデルを構築する研究や大規模言語モデルを用いた研究を実施されている。平先生に、「地域看護研究に生成AIをいかに活用するか」についてご講演いただいた。

2. 日時・方法

2025年3月15日(土) 13:30～15:30にライブ配信を行った。さらに、3月30日(日)までオンデマンド配信を行った。

III. 講演

1. 生成AIの概要とトレンド

1) 人工知能(AI)とは(パワーポイント2枚目、以下スライド2): 人工知能は、専門家の間でも明確な定義はなされていない。1956年に、ダートマス大学で開催されたコンピューター科学の研究会で初めて人工知能という言葉が使われ、「機械が学習や知能をシミュレートできるようにすること」や「Human Brain(人間の脳のような知能を創る)ものである」などさまざまな定義がなされている。

2) AIと生成AIはなにが違うの?(スライド3): 従来のAIモデルと生成AIの違いは、従来のAIモデルは各タスクが分断されバラバラに対応する仕組みとなっている。たとえば翻訳用のAIでは翻訳以外のことはできない。他方で生成AIモデルは、多様かつ大量の情報やデータに対して、基板モデルが多くの分野をカバーし、一括して処理できる。

3) 生成AIの分類(スライド4): 生成AIには、①コードの改変等が可能なオープンモデルの代表的なものにはLlama3.2, Phi3.5, モデルを公開しておらず、ユーザーの権限を制限しているクローズドモデルにはGPT-4, Claudeなどがある。②規模からみると高性能、大規模なものにはGPT-4, Claude, 中性能小型なものには

Deepseek R1やPhi3.5などがある。

2. 生成AIの活用事例紹介—臨床・研究

1) 研究紹介(スライド5): 平先生が2023年に発表した論文では、論文投稿時から1年前のChatGPT-3.5で、おおむね日本の看護師国家試験に合格できるレベルであったが、必修問題だけ若干ミスがあった。しかし、最新のモデル(GPT-4o)で、適切に入力すると完璧に合格するレベルとなった。

2) 臨床(スライド6): Ayersら(2023)の研究では、195件の患者の質問に対して人間の意思とChatGPTの回答を比較した結果、「回答の質」「共感できる度合い」とともに、ChatGPTのほうが高く評価されていた。

3) 2025年3月には、100%生成AIが作成した論文が機械学習系のトップレベルのワークショップで査読を通過しており、論文執筆が半自動化される可能性もある。地域看護や医学分野では住民や患者のデータを収集する必要がある場合が多いが、数学や機械系などの分野では、AIでアイデア出し、反復実験、論文の執筆まで実行する例もでてきている。

3. 生成AIの基本と使い方

1) 生成AIモデルごとの得意/不得意(スライド7): 生成AIのモデルは100個以上あるといわれている。そのなかでも地域看護学の研究者にお勧めな3つのモデルの特徴を紹介したい。①ChatGPTはバランスよくいろいろな機能がほしい、有料版はどれか1つだけしか使わない、英語でのやり取りが多いときに有用である(講演会時点では、英語の方が得意なモデルであったが、本稿執筆時点では日本語特化モデルが公開されている)。②Claudeは、日本語での文章能力が高いものがよい、CSVファイルなどを投入する機能はない、生成AIとのやり取りを気軽に共有したい場合に有用である。③Perplexityは、WEB検索で最新の情報をとりたい、引用情報が欲しい場合に有用である。ただし、この分野の進歩は目覚ましく(各社、数か月に1回、新しいモデルを投入してくる)、半年程度で情勢がわかるため、あくまで現在の状況の説明となる。①ChatGPTと③Perplexityには無料版もあるので、まずは無料版から試してもよいと思う。

2) 研究に生成AIを使う注意点(スライド8): ①出力内容の真偽については、必ずヒトによるダブルチェックを行う、②生成AIを活用して作成したコンテンツを含

む場合には、その旨をどこかに明記する(生成AIのバージョンや設定についても、記録を残しておく)。③個人情報や学内(社内)の機密情報は、生成AIに渡さないことがあげられる。

4. 生成AIの性能を引き出すコツ

1) プロンプト・エンジニアリング(スライド9): 生成AIの性能を引き出すコツとしてプロンプト・エンジニアリングが大切である。プロンプト・エンジニアリングとは「AI(人工知能)から望ましい出力を得るために、指示文や命令文を設計、最適化するスキル」のことである。

2) 代表的なテクニックや手法(スライド10-12): プロンプト・エンジニアリングの代表的なテクニックや手法には以下の5点がある。①明確な指示と具体的な要求をする、②複雑な問題のときには、段階的に指示を出す、③AIに特定の役割を与える、④出力する形式(フォーマット)を指定する、⑤期待する回答のスタイルや詳細さのレベルを示す例示を活用することがあげられる。

3) テンプレートの活用も有効(スライド13): また、プロンプトについては、テンプレートの活用も有効である。

5. 日常業務での活用事例紹介

1) 活動事例: 以下の10点を紹介する。具体的なプロンプトはパワーポイントを参照されたい。

①研究の構想・計画立案(スライド14): 複数の生成AIに同じ質問を同時に回答させることによって、生成AIが誤った情報や存在しない内容を生成する「ハルシネーション」対策を行うこともある。

②論文の要約・質問(スライド15)

③データ分析(データ投入)(スライド16-18): 生成AIに投入した質問やデータは生成AIの再学習に使用される可能性があり、情報漏洩につながる可能性がある。そのため、生成AIの研究での活用については、倫理審査委員会の承認内容に準じる必要がある。

④データ分析(データ未投入)(スライド19-20): データを生成AIに投入できないときの例を示した。R, Python, SPSSのシンタックス等で統計の分析を実行するためのプログラム・コードを書いてもらうことも可能。

⑤英文メールの返事<指示・回答>(スライド21-22): 英文メールに適切に返事したい場合などに有用。

⑥査読コメント対応<指示>(スライド23): 英語論文で理不尽なコメントが来たときの回答と一緒に検

討してもらう。

⑦EXCELの関数作成(スライド24-25)

⑧文章の分類(スライド26-27):文章を指定したラベルに分けてもらう。

⑨簡単なフロー図の作成(スライド28-29)

⑩会議議事録の作成として、トランスクリプトをすべてコピーしてChatGPTに入れて議事録として成型する。この場合、フォーマットの指定もプロンプトで行う。ただし、社外秘・学外秘の情報は流出の恐れがあるので含めない。

2) 独自開発されたAIが必要な作業(スライド30):これらには、文字起こし(Whisper, UD Talk, etc..), 高度な画像生成(Stable Diffusion, Midjourney etc..), 音声生成(VOICEVOX, COEIROINK, A.I.VOICE, VOICEPEAK, AquesTalk, etc..), 作曲(SUNO, Jukebox, Amper Music, etc...)などが含まれている。

3) 発展途上の技術(スライド31):Powerpoint等のスライド作成(Claude×Marp, Gamma, Copilot Pro, Canva, etc...), 動画生成は、いまのところ発展途上である。

6. 生成AIの倫理的課題と今後の展望

1) 看護分野におけるAIの展望(スライド32):ChatGPTで作成した図を提示した。

2) 保健師では?(スライド33):ChatGPTで作成した図を提示した。

3) 戦略的なロードマップが必要(スライド34):今後は、業務を洗い出したうえで、業務特性を確認し、AIに任せられるものは任せることで業務の効率化を図るなどして、看護の質向上に向けたロードマップが必要。

4) 生成AIの導入フェーズ(スライド35):フェーズ1(Empower Employees)は個人的に利用している状態、フェーズ2(Optimize operations)はスタッフ内で活用、フェーズ3は(Engage Customers)は患者さん向けサービスなどに活用する段階である。

5) 生成AI時代に必要なスキル(スライド36):これには問いを立てる力、仮説を立てる力、選択する力がある。

IV. 質疑応答

質問が多かったため質問のいくつかを紹介する。

問1:教育、研究、実践でAIを使用するなかで、「役立った!」「おすすめ!」という使い方はありますか?

うか。

回答:「統計ソフトの分析用プログラム・コードの作成」や公的統計など生成AIに入力できるデータの加工やグラフの作成など、最終結果が明確なものが私個人としてはおすすめです。また、英語は非常に綺麗なもので、ニュアンスや表現の調整などにもよく使用しています。一方で、調べ物(嘘をつくかもしれないので、結局自分で調べないといけない)や文書の生成や要約(細かい言葉の使い方が自分と異なる、自分の意図と異なるなど内容確認や手直しが必要)、アイデア出し(こちらにアイデアの種があって壁打ち相手ならよいですが、完全オリジナルで考えさせると、新規性にかける無難なものになりがちです)などは、現状では自分でした方がよいのかなと思っています。

問2:AIの倫理的な判断について、AIになにを学習させるかで、問題となるような判断を下すことがあると報道をみましたが、近年は解決されてきているのでしょうか。

回答:多数あるAIによって学習しているデータや制約条件(暴力的な表現や医療などの人の命に関わる内容については明言しないように、など)が異なるので一概にいえないところがあります。ChatGPTなどは、学習データを公表しておらず、ありとあらゆるデータが使用されていると思いますが、画像などには著作物も含まれるでしょうし、データのバイアス(大学教授だと白人の高齢の男性、看護師だとアジア圏の若い女性の画像が生成されやすい等)など完全に問題をなくすことはできないと思われますので、使う側の人間が倫理観をもって、最終判断と責任をもつ必要があるのだと考えています。

問3:プロンプトとはなんのでしょうか。

回答:生成AIに人間が指示を出したり、質問をしたりするときに入力する文章のことを「プロンプト」と呼びます。

問4:看護師国家試験において生成AIが間違えやすい問の特徴はありますか?

長文の問題だと正答率が下がるのでしょうか。

回答:複数選択問題や特定の年度の疫学統計値を問う問題が不得意で、対象者の心情面などが予想に反して得意だった印象があります。ただし、私が論文を執筆した時点のモデルからAIもかなりの進歩を遂げているので、現状ではこれらの問題も解消されている部分があるかもしれません。

問5:AIで投入するデータは記述形式が好ましいよう

に感じたのですが、名義尺度や順序尺度のような変数で基盤モデルの作成や変数の入力から予測値を算出することは可能なのでしょうか。

回答：従来の機械学習と生成AIのような基盤モデルとを混在して理解されてしまっているかもしれません。従来の機械学習であれば、量的データを扱うモデルで、特定の目的をもって予測するといったAIでした。一方で、基盤モデルはありとあらゆる分野の情報をテキストベースで大量に学習したうえで、さまざまな形式のデータを扱える（マルチモーダルといいます。PDFや表形式、画像や音声、動画など扱えます）ようになっているので、機械学習や統計学の知識も把握しているからこそ、量的データを使って予測モデルも構築できる、といった感じですね。

問6：この分野の研究を現場の保健師に説明しようとすると、「仕事をとられるかもしれない」と身構えられてしまうような懸念がありまして、なにか誤解を招かないように日々配慮されているアクションプランはありますか。

回答：現状では、人間が指示を出さないことには動かない（意思や欲求はもたない）ですし、出力の結果から判断・選択をして、実行に移すのも人間ですので、あくまで補助ツールと認識すべきでしょう。余談ですが、国内の人口減少トレンドは変わらず、地方自治体の医療・福祉の制度維持も難しくなる地域がでてくることも予測されている現状において、業務を整理し、生成AIと協働していくことは避けては通れない道かと思いますので、適切な向き合い方を考えていくという姿勢が大事ではないでしょうか。

問7：論文等の文献PDFをそのままAIに読み込ませるのは、著作権等の問題はないのでしょうか。

回答：論文に限らず入力するデータの著作権をだれが保有しているのか、によるかなと思います。WEB上で公開されており、Public domainで自由に使用してよい情報などは問題ないですし、有料の会員しかみられない文献等であれば、注意して確認を取りながら扱う方が無難です。

問8：学生に対しては、どこまでAIに関する教育をしたり、活用に関して説明したりしていますか。

回答：看護師や保健師の専門職教育においては、現状ではほとんど使用していません。医療的な内容は生成AIも明言しないように制約がかかっていることも多いですし、誤りがあってはいけなないので、確かな情報（1

次情報）にアクセスするのが原則だと思います。一方で、大学院などで研究をメインにするときに統計ソフトのコード作成やエラー解消などについては、補助的に使っており、RやPythonなどの使用ハードルが下がっているなという実感はあります（入力するデータが個人情報を含む場合などは取り扱いの指導を徹底する必要があります）。

問9：パワーポイント等のスライドを作成する際に生成AIをうまく活用するアドバイスが欲しいです。

回答：現状では、パワーポイントなどのスライドの生成については、まだまだ実用レベルではないというのが私の実感です。スライドの配色や文字の配置などは、人間側の好みやセンスといったものも多分に含まれるため、満足のいくできにはなりにくいと思います。記述する内容や構成を生成AIと対話しながら作成して、デザインは自分で行う、というのが現状では妥協点かなと思います。

問10：個人情報を含むデータや組織内の情報を扱えない（情報流出の懸念から）ことが大きな障壁になると思います。現段階でできる対策等を知りたいです。

回答：使用する情報の機密性とサービス提供者の規約によるところかと思います。サービスによっては、利用者が入力した情報を再学習には使用しないと規約に書いていることもあるので、倫理審査等で問題ないと判断されれば、利用できることもあるかもしれません。（Microsoftが提供しているAzure OpenAI Serviceなどが企業では使われていると聞きます）ただし、あくまで規約上での約束にはなるので、将来的に変更にならない可能性や当該企業がサイバー攻撃を受けるなどリスクがゼロではありませんので、確実に漏洩させないようにするには、ローカル生成AI（生成AIをダウンロードして、デスクにある自分のPCの計算能力で全て処理する）しかないかなと思います。近年では、中・小型の生成AIの性能も向上してきていますので、近い将来に実用レベルに到達するのではないかなと思います。

V. 研究セミナーを終えて

研究セミナーの参加者は171人であり、内訳は、学会員146人（85.4%）、非会員12人（7.0%）、学生（学部・大学院）13人（7.6%）であった。オンデマンド動画の再生回数は208件であった。

アンケートには41人から回答があり有効回答は39人

であった。回答者の居住地は北海道から沖縄まで28都道府県に及んだ。セミナーの内容、講演時間、オンデマンド期間に関しては、よかったという意見がもっとも多かった。「生成AIの基本について理解できましたか」「実践・教育・研究における生成AIの活動を理解できましたか」という質問には、「かなり理解できた」と「まあ理解できた」をあわせてそれぞれ38人(97.5%)であった。また、自由記載に関しては「活用方法について具体的に示していただき大変参考になった」「実際に活用してAIに対する考えを深めていきたい」などAIへの理解や活用に前向きな意見が寄せられた。以上のことから、今回の研修の内容は時代のニーズにみあったものであり、今後の地域看護学における実践・研究・教育へのAIの活用促進を期待できるものであったと考えられる。まずは、地域看護学においてAIを利活用できるように、われわれも地域看護の研究のみならず、実践や教育についても

積極的に公表や発信をしていくことの必要性を再認識する機会となった。また、全国から参加があったことも、オンライン配信の強みであると考えられる。

講師の平先生には、AIに不慣れな参加者にもわかりやすいよう、視覚的な情報をふんだんに取り入れ、多くの実例を示しながら具体的に説明していただき、参加者のAIに対する理解が深まり、大変有意義な時間となったことに深く感謝申し上げます。(文責：鈴木良美)

2024年度研究活動推進委員会

委員長：大森 純子(聖路加国際大学大学院)

副委員長：平野美千代(札幌医科大学)

委員：和泉 京子(武庫川女子大学)

牛尾 裕子(山口大学)

鈴木 良美(東京医科大学)

松永 篤志(東北大学大学院)

山下留理子(徳島大学大学院)

資料 1



生成AIをいかに活用するか
地域看護に

GENERATIVE AI APPLICATION FOR
COMMUNITY HEALTH NURSING

平和也
京都大学大学院医学研究科

現状に即して、開示すべきCOI領域にある企業等がありませぬ。

スライド 1

The diagram consists of four icons arranged in a diamond pattern, each representing a different aspect of AI capabilities:

- Top-left icon:** A clock face, representing time or speed.
- Top-right icon:** A lightbulb, representing ideas or intelligence.
- Bottom-left icon:** A document with a magnifying glass, representing search or analysis.
- Bottom-right icon:** A printer, representing output or execution.

Below the icons, there are two labels indicating the models associated with these capabilities:

- GPT-4, Claude** (associated with the top-left and top-right icons)
- 高性能・大規模** (High Performance / Large Scale)

On the right side of the diagram, there are two more labels:

- V.S.**
- 中性能・小型** (Medium Performance / Small Size)
- LlamaV3.1, Mistral3**

スライド 4

③ 日本語理解、翻訳、発話、発音、漢字変換

3. 生成AIの基本と使い方

1) 生成AIモデルごとの得意/不得意

各社、数か月に1回、新しいモデルを投入してくるため、随時変化します*。

① ChatGPT	② Claude	③ Perplexity
バランスよく色々な機能が良い。 有料版は比較的1つだけ上手に使わない 英語でのやり取りが多い。(英語入力が可)	日本語での文章能力が強い。もの良い CSVファイルなどを投入する機能はない 生成AIでのやり取りを頻回に実行したい	WEB検索で最新の情報をとりたい 引用情報が必要

スライド 7

1. 生成AIの概要とトレンド

1) 人工知能(AI)とは

≡人工知能は、専門家の間でも明確な定義はなされていない

1956年に、ダートマス大学（米国）で開催された、ツェューラ科学の研究会主催の座談会には、以下の提唱がある。

- ・機械が学習や推論をシミュレートできるようにする
- ・Human Brain（人間の脳のような知能を模る）

Timeline of AI milestones:

- 1960年代: 第1次 AIブーム (Early AI)
- 1970年代: 第2次 AIブーム (Expert Systems)
- 1980年代: 第3次 AIブーム (Neural Networks, Knowledge Engineering)
- 1990年代: 第4次 AIブーム (Knowledge Engineering, Neural Networks)
- 2000年代: 機械学習ブーム (Machine Learning)
- 2020年代: 生成AI (Generative AI)

スライド 2

2. 生成AIの活用事例紹介臨床・研究

1) 研究紹介

1年前のChatGPT-3.5で、概ね日本の看護国家試験をPASSできるレベル(必修問題だけ若干Miss)

最新のモデル(GPT-4o)で、適切に入力すると完璧にPASS。

(山田, Thoma, & Inoue, 2023). Performance of the large language model ChatGPT on the national nurse examinations in Japan: evaluation study. *BMJ nursing*, 4, e17025.

Question Type	Model	Score (%)
Basic knowledge questions	2019 (14/12/20)	88.1%
	2020 (1/1/20)	72.9%
	2021 (1/1/20)	73.0%
	2022 (1/1/20)	77.1%
	2023 (1/1/20)	74.7%
General questions	2019 (14/12/20)	71.2%
	2020 (1/1/20)	78.9%
	2021 (1/1/20)	68.9%
	2022 (1/1/20)	68.1%
	2023 (1/1/20)	41.8%

スライド5

2) 研究に生成AIを使う注意点

- ①出力内容の真偽については、必ずヒトによるダブルチェックを行う
- ②生成AIを活用して作成した文章の場合は、その旨をどこかに明記する。
(生成AIのバージョンや設定についても、監査を要しておく)
- ③個人情報や学内（社内）の機密情報は、生成AIに渡さない。

スライド 8

2) AIと生成AIは何が違うの？

従来のAI

生成AI

データ収集

モデル構築

モデル評価

モデルデプロイ

フィードバック

データ収集

モデル構築

モデル評価

モデルデプロイ

フィードバック

生成AI

スライド 3

2) 臨床

スライド 6

[illegible]

スライド 9

2) 代表的なテクニクや手法

- ①. 明確な指示と具体的な要求をする
- ・何で学ばせて出させるのか、
 - ・文章の題意は？ (小生進向け？高校生レベル？)
 - ・日本語？英語？
 - ・文章の構成は？ (例：経費、目的、方法、結果、考察の順番に分けて書く)
- ②. 複雑な問題のときに、段階的に指示を出す。
- ・「1. 問題を分析する」、「2. 解決策を導き出す」、「3. 各解決策のメリットとデメリットを上げる」のような手順ごとに指示をする
 - ・「スキャンニングシステムで導き出、答えを出す前に誤り検出してから」というフレーズを入れる。

スライド 10

3) デンブレートの活用も有効

情報項目	内容
研究目的	あなたは (役割) です。 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、
制約条件	・文字数は、XXXX文字以内で抑えてください。 ・フォーマットは、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。
出力	・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。
出力形式	・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。

スライド 13

③データ分析 (データ投入)

今回は、デモデータとして、Kaggleというサイトで公開されている以下のデータセットを使用

Stroke Prediction Dataset
<https://www.kaggle.com/datasets/strokeprediction-dataset>

<プロンプト>
データを読み込んで、表示してください。

(クワンローとしたCSVをドラッグ&ドロップで読み)

スライド 16

2) 代表的なテクニクや手法

- ③ AIに特定の役割を与える
- (例) あなたは、特定の分析の専門家である研究者です。
最新の研究論文と、その分野の歴史的な発展の両方に精通しているものとして
回答してください。
peer-reviewed journalに掲載されるレベルの質と深さで回答してください。
- ④ 出力する形式 (フォーマット) を指定する。
- ・「箇条書きで」 (形式で) 「500形式で」 (形式で) 出力してください。
 - ・アカデミックライティングで論文に載せてください。

スライド 11

5.日常業務での活用事例紹介

1) 活用事例 ①研究の構想・計画立案

研究目的	あなたは (役割) です。 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、
制約条件	・文字数は、XXXX文字以内で抑えてください。 ・フォーマットは、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。
出力形式	・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。

天昇AI や Chat Hubといったサービスで複数の生成AI
に同じ質問を同時に回答させることもマルチエージェント対策

スライド 14

③データ分析 (データ投入)

今回は、デモデータとして、Kaggleというサイトで公開されている以下のデータセットを使用

<プロンプト>
データを読み込んで、表示してください。

(クワンローとしたCSVをドラッグ&ドロップで読み)

スライド 17

2) 代表的なテクニクや手法

- ⑤ 期待する回答のスタイルや詳細さのレベルを示す例を活用する
- (例) 以下の期待する回答のスタイル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。
各期待する回答のレベル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。
- 期待 (目的) 目的
- 1. 期待する回答のレベル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。
 - 2. 期待する回答のレベル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。
 - 3. 期待する回答のレベル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。
 - 4. 期待する回答のレベル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。
 - 5. 期待する回答のレベル、同じ形式で「期待する回答のレベル」について回答してください。

スライド 12

②論文の要約・質問

研究目的	あなたは (役割) です。 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、
制約条件	・文字数は、XXXX文字以内で抑えてください。 ・フォーマットは、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。
出力形式	・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。

15

スライド 15

③データ分析 (データ投入)

研究目的	あなたは (役割) です。 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、 以下の目的を達成するために、必要な出力は、
制約条件	・文字数は、XXXX文字以内で抑えてください。 ・フォーマットは、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。
出力形式	・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。 ・目的は、明確で、アカデミックライティングしてください。

18

スライド 18

＜プロンプト＞
あなたは、統計の専門家としてできるだけ厳密に回答してください。分析用のデータセットがdfに格納されており、dfには以下の変数がふくまれているものとします。

sex: 0=女性, 1=男性
hypertension: 0=既往なし, 1=既往あり
diabetes: 0=既往なし, 1=既往あり
heart_failure: 0=既往なし, 1=既往あり
smoking_habit: 0=なし, 1=あり
drinking_habit: 0=なし, 1=あり
Stroke: 0=発症なし, 1=発症あり

Strokeの発症のリスク因子を分析したいのですが、何分析を行ったらよいでしょうか。

⑤英文メールの返信<回答>

Dear Editor Assignment Team,

While I fully respect the circumstances, I would like to kindly mention that due to budgetary constraints, I am in a position where I need to finalize decisions regarding the publication of this work sooner rather than later. If there is any possibility of receiving a decision in the near future, I would be most grateful for your consideration.

Please rest assured that I remain committed to this submission, but I would greatly appreciate any updates on the timeline, if possible.

Thank you again for your time and understanding, and I look forward to hearing from you.

Best regards,
{Your Name}

※ 係付のデータをもい、入院日及び退院日の変数から入院日数を算出し、10日以上なら「長期」、10日未満なら「短期」という判定を付け、例に入院期間変数を追記しています。Excel上で実施する場合の間数を考えて教えてください。

※スクリーンショットをとって、画像で張り付けてみましょう。

＜プロンプト＞
提案してもらったロジスティック回帰分析を実行したいのですが、Rで実行するためのプログラムコードを書いてもらえますか？

⑥ 査読 対称指示

【状況設定】
病院内機能評価指標をアウトカムにした研究を投稿している状況で、患者個人の健康状態をアウトカムにした研究でないなら無価値だ！という理不尽なコメントがきたときの回答を
緒に検討してもらおう。

学術雑誌(Journal Name)に投稿中の論文について、以下のような査読コメントがきました。

病院機能評価指標は、先行研究で患者のアウトカムと因果関係があることも報告されており、本文にも書いているのですが、相手の主張も尊重したうえで、本研究の意義を伝えられるようレスポンスの文面を英語で考えてください。メール形式にせず、内容だけでいいです。

The authors should have focused on patient survival, complication rates, or quality of life instead of hospital function indicators.²⁸

⑧ 文庫の分類

[illegible]

「保健師の業務内容と社会的役割」をテーマとして、学生が書いてきたレポート（架空）の文面をCHATGPTに分類させてみる

「*学術雑誌(Journal Name)*」に投稿中の論文について、Editorial teamより以下のようなメールを受け取りました。予算の支出期限の関係で、査読結果の決定を急いでいることを伝えたいです。返信メールは、査読プロセスが大変な作業である事情に理解を示したうえで、失礼の内容配置してほしいです。

#以下、メール本文
Dear Dr. {Author}

We hope this email finds you well. We are writing to offer an update on your submission to the *{Journal Name}* entitled "*{Manuscript title}*" (*{Manuscript ID}*).

..... (今回は、Editor が対応不能になり、新しいEditorを探している旨のメール)

論文投稿時のCOVER LETTER等も

⑦EXCELの関数作成

【状況設定】

以下のようなデータを集計作業しており、入院日数が10日以上なら“長期”、10日未満なら“短期”という判定を付け、1列に入院期間変数を追記したいとする。

[illegible]

スライド 24

⑧文章の分類

[illegible]

スライド 26

スライド 27

⑨簡単なフロー図の作成

添付の画像に書かれたフロー図をデジタル化してください。
※手書きで書いたフロー図を写真撮影などして添付しましょう。

※注意：Claudeではうまく動作しますが、ChatGPTで実行すると、日本語のフロー図の場合
フォントが文字化けする可能性があります。

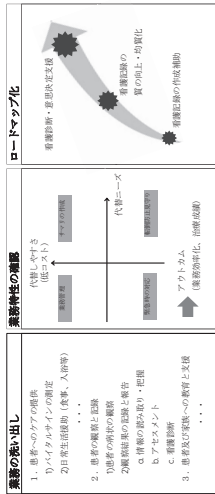
スライド 28

3) 発展途上の技術

- Powerpoint等のスライド作成
(ClaudeXMarp, Gamma, Copilot Pro, Canva, etc...)
- 動画生成

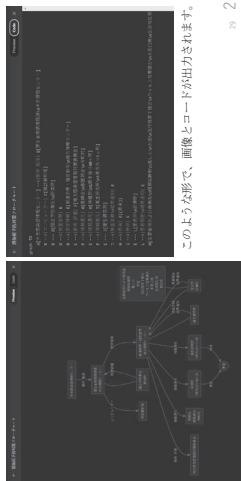
スライド 31

3) 戦略的なロードマップが必要



スライド 34

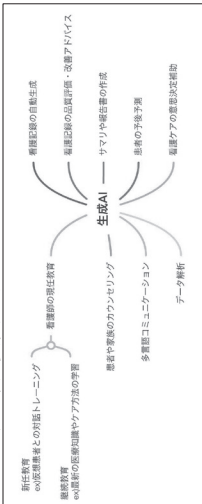
⑨簡単なフロー図の作成



このような形で、画像とコードが出力されます。

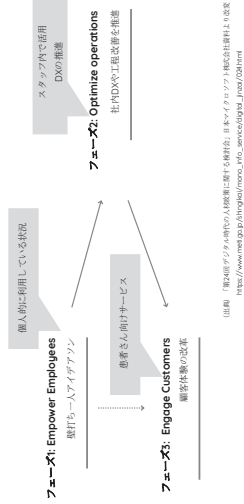
スライド 29

6.生成AIを地域看護にどう活かすか 1) 看護分野におけるAIの展望



スライド 32

4) 生成AIの導入フェーズ



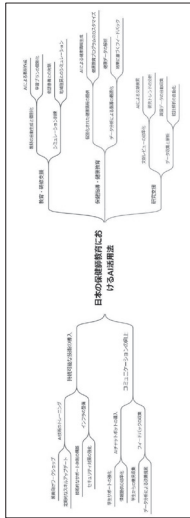
スライド 35

2) 独自開発されたAIが必要な作業

- 文字起こし (Whisper, UD Talk, etc.)
- 高度な画像生成
(Stable Diffusion, Midjourney etc.)
- 音声生成
(VOICEVOX, COEIROINK, ALVOICE, VOICEPEAK, AquesTalk etc.)
- 作曲
(SUNO, Jukebox, Amper Music, etc.)

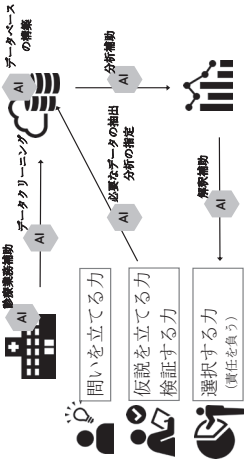
スライド 30

2) 保健師では？



スライド 33

5) 生成AI時代に必要なスキル



スライド 36

2023～2024年度日本地域看護学会・日本公衆衛生看護学会・日本在宅看護学会3学会合同委員会報告

看護師に必要な地域関連看護能力と 学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）

2023～2024年度地域看護関連学会合同委員会

日本地域看護学会誌, 28 (2) : 87-92, 2025

I. はじめに

わが国は少子超高齢化と人口減少に伴い、労働力の減少、医療費や社会保障費の増大など、新たな局面に直面している。そのため、社会全体の活力を維持し、健康寿命を延伸させること、医療や介護のサービス資源を適切に確保することが求められている。また、人々の生活様式や価値観、家族機能などが多様化してきているなか、医療機関の看護師によるアウトリーチ活動、訪問看護師等による「まちの保健室」などの地域づくり、地域の医療・介護事業所間の連携による災害やパンデミック等の健康危機管理対策など地域の看護活動は、幅広く進化し続けている。したがって、これまで以上に看護師には、多様な人々の健康・暮らしを守るために地域を基盤とした良質な看護実践を提供できる資質が必要である。

地域に関連する看護教育分野において、過去10年あまりの間にさまざまな変化してきている。特に、学士課程における保健師教育の選択制や、大学院や大学専攻科での上乗せ教育が普及しはじめたうえに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則）改訂（2022年度）では「在宅看護論」から「地域・在宅看護論」となり、教育内容の幅が広がった。さらに、2023年度からは文部科学省において看護学教育モデル・コア・カリキュラムの大幅な改訂作業が始まり、2025年3月末には看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）が完成したところである。

このように、教育内容が変貌しているこの時期において、これからの時代を担う看護師が地域で看護実践を行

うために必要な資質や看護学生がその資質を修得するための必要最低限の教育内容はどのようなものであるか、地域に関連する看護を教える教育者等が意見交換を行い、一定の方向性を示すことは、今後の看護学と看護実践の基盤を堅牢にするために必要不可欠な事項である。

II. 日本地域看護学会・日本公衆衛生看護学会・ 日本在宅看護学会3学会合同委員会での検討

そこで、日本公衆衛生看護学会、日本在宅看護学会、日本地域看護学会の3学会にて合同委員会を立ち上げ、2023～2024年度にかけて、看護師に求められる地域関連看護の能力を明確にし、学士課程の卒業時到達目標と教育内容について、検討を行った。本稿では、その検討結果について報告する。

検討を始める際、合同委員会では、各学会による在宅看護学、地域看護学、公衆衛生看護学の定義を共有した。そのうえで、看護が働きかける対象の健康水準・システムの規模（個人、集団、地域、社会など）ならびに看護の機能などの観点から、3領域の看護の特性や共通性を挙げ、各領域の関係性について意見交換を行った。学生等がその関係性を理解しやすいように図式化を試みたが、合意には至らなかった。さまざまな背景や経緯から各学会で想定している領域の範囲が異なり、整理のための意見交換などが今後、必要と考える。

同時に、この合同委員会では、看護学教育モデル・コア・カリキュラム案の作成時において、当該分野のエキスパートとして、地域における健康支援などを中心に学

表1 看護師に必要な地域関連看護の能力

1. 健康の社会的決定要因を理解し、地域の健康を改善・促進する活動に協働できる。
2. 人々の健康と暮らしを支える法制度を理解して、地域における看護を提供できる。
3. 生活者とその家族の健康課題をアセスメントし、看護を提供できる。
4. 在宅療養者への看護を展開できる。
5. 対象者および関わる周囲の人々との関係を構築し、その人らしい生活の維持・向上に向けて多職種および住民と連携・協働ができる。
6. 地域における健康危機管理を理解し、健康危機に対する予防対策を講じ、看護を提供できる。
7. 地域包括ケアシステムの構築および推進に貢献できる。

士課程において必要な資質・能力の整理や精錬化などの作業を担いながら提案を行ってきた。なお、今期は、日本地域看護学会が幹事役となったため、日本地域看護学会誌において報告を行うこととなった。

Ⅲ.「看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標と教育内容」(暫定版)

「看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標と教育内容」(暫定版)の作成については、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)の資質・能力のうち、「地域社会における健康支援(Healthcare in Society; SO)」「対象を総合的・全人的にとらえる基本的能力(Generalism; GE)」「多職種連携能力(Interprofessional Collaboration; IP)」「ケアの質と安全の管理(Quality and Safety; QS)」などから地域での看護実践に直結する重要な側面を中心に選択し、これをもとに検討を加えている。

まず、「A.看護師に必要な地域関連看護の能力」として、看護系大学を卒業後、適切な期間の実践経験を経た後の看護師が修得していることを期待する能力を検討した(表1)。

具体的には、地域での看護実践の基盤となる能力として、「1.健康の社会的決定要因を理解し、地域の健康を改善・促進する活動に協働できる」と「2.人々の健康と暮らしを支える法制度を理解して、地域における看護を提供できる」を挙げている。また、地域で暮らす対象者への看護実践の基盤として必要な能力として「3.生活者とその家族の健康課題をアセスメントし、看護を提供できる」と「4.在宅療養者への看護を展開できる。」を挙げている。さらには個々の対象者への看護を中心に地域にむけた看護実践の基盤として必要な能力には「5.対象者および関わる周囲の人々との関係を構築し、その人らしい生活の維持・向上に向けて多職種および住民と連携・協働ができる」「6.地域における健康危機管理を

理解し、健康危機に対する予防対策を講じ、看護を提供できる」「7.地域包括ケアシステムの構築および推進に貢献できる」を取り上げた。

次に、これらの能力を得るために必要な「B.卒業時到達目標」について、モデル・コア・カリキュラムにおける第2階層に対しての学修目標に基づいて、整理した。さらに、これらの「B.卒業時到達目標」に紐づく「C.目標に到達するための教育内容」を整理したが、その際には第3階層ならびに第4階層を参照して作成した。また、各項目について学生が理解しやすい順序性などを考慮して整理した。それぞれの「看護師に必要な地域関連看護の能力」ごとにみた卒業到達目標と目標に到達するための教育内容については、表2-1～2-7に示すとおりである。

これらの内容については、指定規則の「地域・在宅看護論」の教育内容と同等ではなく、他の科目と組み合わせで教授することを意図している。また、看護師国家試験出題基準や指定規則に含まれる在宅看護技術に関する教育内容については、含めていない。

Ⅳ. まとめ

本委員会にて作成してきた教育内容は、あくまで暫定版であり、今後、各大学での授業の組み立てや教材に活用していただきながら充実させ、改編を繰り返していくことが必要不可欠である。しかしながら、今回、「看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容」を整理したことにより、教授者によらず地域での看護に関する一定の教育内容を提供できることを想定している。教育は、社会の多様な影響を受けながら絶え間なく変化するものであり、本教育内容についても多くの教育者や学生によって手が加えられることでさらに洗練され、より普遍的なカタチへと進化することを期待している。

表2-1 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その1

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
1. 健康の社会的決定要因を理解し、地域の健康を改善・促進する活動に協働できる。	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
地域社会と健康^{a)} SO-01 人々の健康に影響を与える地域の特性や社会的決定要因を理解し、健康を改善・促進するための考え方を理解できる。	1. 地域の暮らしと健康 1) 人々の多様な暮らし 2) 地域における暮らしの場 3) 環境・地域特性が健康に及ぼす影響 2. 健康の社会的決定要因 1) 健康の社会的決定要因 2) 健康の社会的決定要因への働きかけ 3) 地域の健康格差と課題 3. 健康の改善と促進 1) 健康の維持増進、疾病予防 2) 健康の改善と促進の概念 3) 集団・地域へのアプローチ

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のSO-01を参考に作成した。

表2-2 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その2

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
2. 人々の健康と暮らしを支える法制度を理解して、地域における看護を提供できる。	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
人々の健康と暮らしを支える法制度と保健活動の基本^{a)} 日本の社会保障制度の成り立ちと衛生行政のしくみを理解し、それに基づく保健活動の基本について理解している。	1. 人々の健康と暮らしを支える法制度の成り立ちと変遷 1) 社会保障制度の変遷と種類 2) わが国の財政と社会保障制度 3) 社会保障制度の目的と体系 2. わが国の衛生行政のしくみ 1) 衛生行政の変遷としくみ（国、自治体の仕組み） 2) 地方分権と自治体の役割 3) 衛生行政を執行している各機関の概要（保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所など） 4) 衛生行政における看護職に関わる法制度 3. 地域保健に関連する人々の健康と暮らしを支える法制度と保健活動 1) 地域保健に関する法制度の体系と概要 2) 地域における看護職に関わる法制度や法規の変遷 3) 地域保健を担う各機関と看護職の役割 4) 地域における医療や福祉に関連する法制度と看護活動
医療・保健・介護・福祉・教育に関する法制度の理解^{b)} 人々の健康と暮らしを支える医療、保健、介護、福祉や教育に関する法制度について理解し、多様な場と領域で展開される看護活動について理解している。	1. 子どもの健康に関連する法制度と看護活動 1) 子どもの健康を守るしくみと法制度 2) 子どもの健康を守る看護活動 2. 働く人の健康に関連する法制度と看護活動 1) 働く人の健康を守るしくみと法制度 2) 働く人の健康を守る看護活動 3. 保健・福祉・介護に関連する法制度と看護活動 1) 障がいのある人に関する法制度と看護 2) 生活に困窮する人に関する法制度と看護 3) 高齢者に関する法制度と看護 4) 医療資源が限られた人への法制度と看護 5) 介護を要する人への法制度と看護 4. 医療に関連する法制度と看護活動 1) 地域医療体制の仕組みと地域医療構想 2) 医療保険制度のしくみ 3) 地域連携（クリティカルパスなど）と看護職の役割

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のSO-02を参考に作成した。

b) モデル・コア・カリキュラム第2階層のSO-03を参考に作成した。

表2-3 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その3

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
3. 生活者とその家族の健康課題をアセスメントし、看護を提供できる。	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
対象のアセスメントと看護^{a)} 生活者とその家族の健康課題をアセスメントしたうえで看護計画を立案し、看護活動について理解している。	1. 健康のアセスメント 1) 病歴や症状 2) 治療状況や医療管理 3) 発達段階 4) 健康の理解 5) ケアや治療の選択に対する意向 2. 生活のアセスメント 1) 生活習慣 2) 生活行動 3) 役割や社会参加 4) 住環境 5) 生活暦とライフコース 6) 地域の生活アクセシビリティ 7) 地域の交流・文化・習慣 3. 家族のアセスメント 1) 家族構成や家族機能 2) 家族の発達課題 3) ジェノグラムとエコマップ 4. 生活者としての対象と家族への看護 1) 臨床推論と看護過程 2) 家族への支援 3) セルフケアと看護 4) 強み（ストレングス）と看護 5) 保健行動と看護 5. 事故と安全の確保 1) 生活の場における事故 2) 看護を提供する際の事故 3) 事故の防止 4) 事故が起きた際の対応

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のGE-02、GE-07を参考に作成した。

表2-4 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その4

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
4. 在宅療養者への看護を展開できる。	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
在宅療養者に対する看護^{a)} 在宅療養者・家族の望む暮らしを支える在宅における看護の提供方法、および訪問看護の機能と役割について理解している。	1. 在宅療養者に対する看護の提供 1) 在宅看護や対象の特徴 2) 在宅療養者・家族の強みを活かす支援 3) 家族の介護負担に向けた支援 4) エンド・オブ・ライフ・ケア 5) ケアマネジメントと社会資源の活用 6) 療養の場の移行における支援 7) 在宅における看護過程の展開 8) 訪問する際の留意点 2. 訪問看護の機能と役割 1) 訪問看護の制度、しくみ 2) 訪問看護ステーションの特徴、管理・運営 3) 訪問看護の質保証 4) 緊急時における事業継続計画（BCP）

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のSO-06を参考に作成した。

表2-5 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その5

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
5. 対象者および関わる周囲の人々との関係を構築し、その人らしい生活の維持・向上に向けて多職種および住民と連携・協働ができる。	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
信頼関係の構築と多職種協働^{a)} 対象者および関わる周囲の人々と関係性を構築して連携・協働する必要性と看護の役割・責務を理解し、多職種協働ケアのプロセスについて理解している。	1. 関係性の構築の基本となる概念 1) 対象者のエンパワメントとパートナーシップ 2) 主体的な意思決定 3) 倫理的ジレンマとアドボカシー 4) 個性性と多様性の尊重 2. 連携協働の必要性と看護の役割 1) 多職種連携の必要性 2) 多職種連携における看護職の役割と責務 3) 協働する主な関係機関・職種とその役割 4) 住民との協働の意義 3. 多職種連携に求められる能力・スキル 1) チーム力を高めるコミュニケーションの手法とスキル 2) マネジメント能力 3) リーダーシップとメンバーシップ 4. 多職種連携のプロセス 1) 健康・生活支援のケアニーズの把握 2) ケア課題の明確化と多職種での共有 3) ケアの調整 4) 多職種協働とケアプランの作成 5) ケアプランの実施と評価

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のGE-06, GE-05, IP-01, IP-03, IP-02, IP-04, IP-05, GE-03, GE-04を参考に作成した。

表2-6 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その6

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
6. 地域における健康危機管理を理解し、健康危機に対する予防対策を講じ、看護を提供できる。	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
地域における健康危機と看護^{a)} 健康危機管理の概念と法制度について理解し、それを踏まえた地域における予防対策と看護活動について理解している。	1. 健康危機の概念と法制度 1) 健康危機の概念について 2) 健康危機（災害・感染症等）に関する法律と施策 2. 地域における災害の予防対策と看護 1) 災害の種類と経過（フェーズ） 2) 災害発生時における地域の人々の暮らしと健康への影響 3) 災害時における保健医療活動と看護職の役割 4) 災害時の要援護者とその看護 5) 被災地における住民との関わり、地域連携、多職種連携 3. 地域における感染症の予防対策と看護 1) 市中感染を生じる感染症の理解と予防 2) 感染症に関するサーベイランスなど市中感染の把握方法 3) 感染症発生時の保健医療活動と看護職の役割 4) 感染症発生時の住民との関わり、地域連携、多職種連携

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のSO-07, QS-05, QS-06を参考に作成した。

表2-7 看護師に必要な地域関連看護の能力と学士課程の卒業時到達目標・教育内容（暫定版）その7

【A. 看護師に必要な地域関連看護の能力】	
7. 地域包括ケアシステムの構築および推進に貢献できる.	
【B. 卒業時到達目標】	【C. 目標に到達するための教育内容】
地域包括ケアシステムの構築と推進 ^{a)} 地域包括ケアシステムの構築と推進の必要性を理解し，社会資源の活用について理解している.	1. 地域包括ケアの概念と地域共生社会 1) 地域包括ケアの基本理念 2) 地域包括ケアシステム構築の意義と構成要素 3) 地域包括ケアシステムと「自助・互助・共助・公助」 4) 地域共生社会の考え方 2. 地域のアセスメント 1) 地域アセスメントとその必要性 2) 地域アセスメントの視点と情報収集方法 3) 地域の健康課題の分析 4) 地域包括ケアシステムへの展開に向けた地域アセスメントの活用 3. 地域の社会資源の活用 1) 地域の社会資源の種類と特徴 2) 地域の社会資源の査定 3) 社会資源を活用する目的 4) 社会資源の活用方法 5) 社会資源の開発（創出）の意義 4. 地域包括ケアシステムの構築と推進 1) 住民の主体的な活動や交流の場づくり 2) ケアチームづくりから地域ケアシステム構築への展開 3) 地域包括ケアシステムを継続的発展的に推進する必要性と看護の役割

a) モデル・コア・カリキュラム第2階層のSO-04, SO-05を参考に作成した.

2023～2024年度地域看護関連学会合同委員会	日本公衆衛生看護学会：岩本 里織（神戸市看護大学）
日本地域看護学会：河野あゆみ（大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野）	岸 恵美子（東京医療保健大学）
佐藤 紀子（千葉県立保健医療大学）	日本在宅看護学会：小野若菜子（東京都立大学）
岡本 玲子（大阪大学）	清水 準一（東京医療保健大学）
麻原きよみ（大分県立看護科学大学）	山田 雅子（聖路加国際大学）
	尾崎 章子（東北大学）

学会だより

一般社団法人日本地域看護学会 2024年度 事業報告書

I. 会員数

1. ブロック別会員数

2025年3月31日現在

ブロック	都道府県	会員数
北海道・東北	北海道, 青森, 秋田, 宮城, 山形, 福島, 岩手	159
関東	群馬, 茨城, 栃木, 千葉, 埼玉, 神奈川	322
東京都	東京都	165
甲信越・中部	静岡, 愛知, 岐阜, 三重, 福井, 富山, 石川, 長野, 山梨, 新潟	281
関西	滋賀, 大阪, 京都, 奈良, 兵庫, 和歌山	237
中国・四国	岡山, 広島, 島根, 鳥取, 山口, 高知, 香川, 徳島, 愛媛	138
九州・沖縄	福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 鹿児島, 宮崎, 沖縄	104
	会員数合計	1,406

2. 経年会員数推移

総会報告時

年度	会員数	対前年度比	年度	会員数	対前年度比
1998	420	—	2012	1,298	100%
1999	569	135%	2013	1,312	101%
2000	695	122%	2014	1,339	102%
2001	794	114%	2015	1,417	105%
2002	918	115%	2016	1,404	99%
2003	935	101%	2017	1,441	102%
2004	976	104%	2018	1,438	99%
2005	1,068	109%	2019	1,424	99%
2006	1,128	105%	2020	1,413	99%
2007	1,172	103%	2021	1,405	99%
2008	1,241	105%	2022	1,396	99%
2009	1,265	101%	2023	1,388	99%
2010	1,360	107%	2024	1,373	99%
2011	1,286	94%			

II. 事業報告

1. 理事会を4回開催した.

会議名	開催日・方法	主な議題
2024年度 第1回理事会	2024年5月11日 Zoomによるオンライン会議	2023年度事業報告, 決算・監査報告, 2024年度事業計画, 予算, 名誉会員候補者, 第29回学術集会について等
2024年度 臨時理事会	2024年8月19日～22日 メール審議による開催	新監事とその選任方法について
2024年度 第2回理事会	2024年10月26日 Zoomによるオンライン会議	2024年度役員選挙, 第28回学術集会理事会セミナー企画, 「看護学生のための地域看護ハンドブック」書籍化について, 入会金, 年会費の改定, 各委員会の活動計画, 第27回, 28回学術集会について等



会議名	開催日・方法	主な議題
2024年度 第3回理事会	2025年2月8日 Zoomによるオンライン会議	ウェブサイト管理運用規程ならびにソーシャルメディア管理運用規程、2024年度事業報告、2025、2026年度事業計画、2025年度予算について等

※その他、監査および委員会における会議（詳細は各委員会の報告書を参照）を適宜開催した。

2. メール審議を実施した。

回数	審議結果報告日	議 題	結 果
第1回	2024年5月9日	投稿規程の改定案・英訳案について	第2回理事会にて審議し全会一致で承認した
第2回	2024年8月22日	宮崎先生ご逝去による新監事および選任方法について	全会一致で承認した
第3回	2024年11月19日	2024年度役員選挙告示方法について	全会一致で承認した

3. 社員総会を2回開催した。

会議名	開催日・方法	主な議題
2024年度 社員総会	2024年6月28日 TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口「カンファレンスルーム 7D」	2023年度事業報告、決算・監査報告、2024・2025年度事業計画、予算、名誉会員等
2024年度 臨時社員総会	2024年8月26日～30日 書面による開催	新監事とその選任方法について

4. 会員報告会の開催を第27回学術集會会期中に開催した。

5. 第27回学術集會を開催した。

テーマ：地域看護のソーシャルイノベーションー地域社会の包容力を高める看護の挑戦ー

学術集會長：大森 純子

（東北大学大学院医学系研究科 名誉教授／聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授）

会 期：2024年6月29日（土）～6月30日（日）（Web開催）～8月31日（土）

参加者数：1,106名

6. 第27回学術集會時に理事会企画セミナーを実施した。

テーマ：地域看護学・公衆衛生看護学・在宅看護学の看護基礎教育の今後に向けて

座 長：岸 恵美子氏（日本地域看護学会 副理事長）

河野あゆみ氏（日本地域看護学会 副理事長）

7. 日本地域看護学会誌第27巻第1号（2024年4月20日発行）、第2号（2024年8月20日発行）、第3号（2024年12月20日）を電子体で発行した。

8. 地域看護学に関する研究活動を推進し、委員会セミナーをオンライン開催にて実施した。

1) 研究セミナー（オンライン開催）

ライブ配信：2025年3月15日（土）13：30～15：30

オンデマンド配信：3月18日（火）～3月30日（日）まで

タイトル：地域看護研究に生成AIをいかに活用するか

講 師：平 和也氏（京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻 助教）

参 加 者：171名（会員：146名、大学院生：13名、非会員：12名）

9. 地域看護学に関する広報活動を強化した.

1) 会員専用サイトの開設を行った.

10. 地域看護学に関する教育のあり方について検討した.

11. 地域看護学に関する国際的な交流を行い, News Letter No.23を発行した.

12. 日本地域看護学会表彰制度を運営し, 規程に基づき表彰論文の決定と名誉会員候補者の検討を行った.

1) 優秀論文(1編)

タイトル: 10代初産母親の逆境的小児期体験(ACE)の特徴と育児中の心身の健康, 経済的状況との関連(原著)

著者: 大川 聡子, 眞壁 美香, 金谷 志子, 上野 昌江

巻号頁: 26(1), 4-12

2) 奨励論文(2編)

タイトル: 精神障がいを抱える親の妊娠期から学童期における支援ニーズ(研究報告)

著者: 加藤 ねね, 蔭山 正子, 岩崎 りほ

巻号頁: 26(1), 32-40

タイトル: 乳幼児虐待予防に向けて市町村保健師が支援の必要な「気になる親子」を判断するためのアセスメントの視点(研究報告)

著者: 飯塚 瑞季, 大澤真奈美, 行田 智子

巻号頁: 26(3), 31-42

13. 災害等の視点から地域看護の実践・教育・研究に関して検討した.

14. 地域看護学における実践活動を促進した.

15. 地域看護学における次世代育成を推進した.

1) LINEオープンチャット「地域看護の次世代を考えるグループ」の運営, YouTubeチャンネルにおいてライブ配信やショート動画の公開を行った.

16. 看護系学会・公衆衛生関連学協会との連携を進め, 活動に参画した.

17. 地域看護学の再定義を踏まえ, 関連学会との連携による地域看護学の概念整理等を行った.

18. 2025年度年会費の請求分より年会費の支払いを従来の郵便振替に加え, クレジットカードによる支払を追加した.

一般社団法人日本地域看護学会 2025年度 事業計画書

1. 理事会を4回以上および監査会議を1回以上開催する。
2. 社員総会を1回開催する。
3. 会員報告会を1回開催する。
4. 第28回学術集会を開催する。
5. 第28回学術集会時に理事会セミナーを実施する。
6. 日本地域看護学会誌第28巻第1号、第2号、第3号を電子体で発行する。
7. 地域看護学に関する研究活動を推進する。
8. 地域看護学に関する広報活動を強化する。
9. 地域看護学に関する教育を推進する。
10. 地域看護学に関する国際的な交流を行い、英文ニュースレターを年1回発行する。
11. 日本地域看護学会表彰制度を運営する。
12. 災害等の視点から地域看護の実践・教育・研究に関して検討する。
13. 地域看護学における実践活動を促進する。
14. 地域看護学における次世代育成を推進する。
15. 看護系学会・公衆衛生関連学協会との連携を進め、活動に参画する。
16. 地域関連看護学会との協議により、連携のあり方などについて検討を行う。
17. その他必要な事業を行う。

一般社団法人日本地域看護学会 2026年度 事業計画書

1. 理事会を4回以上および監査会議を1回以上開催する。
2. 社員総会を1回開催する。
3. 会員報告会を1回開催する。
4. 第29回学術集会を開催する。
5. 第29回学術集会時に理事会セミナーを実施する。
6. 日本地域看護学会誌第29巻第1号、第2号、第3号を電子体で発行する。
7. 地域看護学に関する研究活動を推進する。
8. 地域看護学に関する広報活動を強化する。
9. 地域看護学に関する教育を推進する。
10. 地域看護学に関する国際的な交流を行い、英文ニュースレターを年1回発行する。
11. 日本地域看護学会表彰制度を運営する。
12. 災害等の視点から地域看護の実践・教育・研究に関して検討する。
13. 地域看護学における実践活動を促進する。
14. 地域看護学における次世代育成を推進する。
15. 看護系学会・公衆衛生関連学協会との連携を進め、活動に参画する。
16. 地域関連看護学会との協議により、連携のあり方などについて検討を行う。
17. 代議員選挙・役員選挙を行う。
18. その他必要な事業を行う。

一般社団法人日本地域看護学会 2024年度 貸借対照表

法人名：一般社団法人日本地域看護学会		2025年3月31日現在（決算）		
事業名：事業全体		（単位：円）		
	科 目	当年度	前年度	増 減
I. 資産の部				
流動資産				
現金預金				
	普通預金（事務センター）	36,514,060	36,145,099	368,961
	郵便振替（年会費等）	24,243,967	31,432,809	△7,188,842
	普通預金（第26回学術集会運転資金）	1,009,230	2,999,230	△1,990,000
	普通預金（第27回学術集会運転資金）	0	331,053	△331,053
	普通預金（第28回学術集会運転資金）	49,031	1,382,007	△1,332,976
	普通預金（事務センター）	1,210,528	0	1,210,528
	未収金	10,001,304	0	10,001,304
	前払金	46	0	46
	前払金（第27回学術集会運転資金）	0	65,780	△65,780
	前払金（第28回学術集会運転資金）	0	18,000	△18,000
流動資産合計		36,514,106	36,228,879	285,227
資産合計		36,514,106	36,228,879	285,227
II. 負債の部				
流動負債				
	未払金	271,876	0	271,876
	前受金（年会費等）	1,010,000	3,000,000	△1,990,000
	前受金（第27回学術集会運転資金）	0	400,007	△400,007
	前受金（第28回学術集会運転資金）	210,528	0	210,528
流動負債合計		1,492,404	3,400,007	△1,907,603
負債合計		1,492,404	3,400,007	△1,907,603
III. 正味財産の部				
一般正味財産				
	正味財産合計	35,021,702	32,828,872	2,192,830
負債及び正味財産合計		36,514,106	36,228,879	285,227

一般社団法人日本地域看護学会 2024年度 収支計算書

自 2024年4月 1日
至 2025年3月31日

I. 一般会計
1. 収 入 (単位：円)

項 目	2024年度 予 算	2024年度 決 算	差 異 (収入減 △)	執行率	備 考
1 年会費	13,680,000	13,370,000	△310,000		10,000円×1,337件 2024年度：1,304 / 1,356人(入金率 96.1%)，過年度：33件
2 入会金	650,000	505,000	△145,000		5,000円×101件
3 寄付金	0	0	0		
4 第27回学術集会	11,158,000	11,751,141	593,141		助成金710,000円を含む
5 委員会セミナー参加費	415,000	444,500	29,500		
6 投稿料	200,000	180,000	△20,000		5,000円×36件
7 雑収入	10,200	15,712	5,512		
(1) 利息	200	9,112	8,912		
(2) 著作権使用料	10,000	6,600	△3,400		
(3) その他	0	0	0		
(A) 当期収入合計	26,113,200	26,266,353	153,153		
前期繰越金	32,828,872	32,828,872	0		
(B) 合 計	58,942,072	59,095,225	153,153		

2. 支 出 (単位：円)

項 目	2024年度 予 算	2024年度 決 算	差 異 (支出増 △)	執行率	備 考
事業費支出					
1 第27回学術集会	12,158,000	12,751,000	△593,000	104.9%	
2 理事会セミナー	50,000	0	50,000	0.0%	
3 会員報告会	50,000	30,140	19,860	60.3%	お弁当お茶代
4 研究論文表彰費	150,000	133,760	16,240	89.2%	論文賞副賞110,000円を含む
5 学会誌	3,650,000	2,650,450	999,550	72.6%	第27巻第1号，第2号，第3号
(1) 製作費	3,500,000	2,606,450	893,550	74.5%	
(2) J-STAGE掲載作業費	150,000	44,000	106,000	29.3%	
6 委員会活動費	2,501,000	1,919,163	581,837	76.7%	
(1) 編集委員会	750,000	530,451	219,549	70.7%	委員会開催(3回)，拡大編集委員会開催費(1回)等
(2) 研究活動推進委員会	500,000	442,063	57,937	88.4%	委員会開催(3回)，セミナー開催費
(3) 広報委員会	263,000	258,651	4,349	98.3%	委員会開催(2回)，アンケート調査実施費用
(4) 教育委員会	208,000	81,722	126,278	39.3%	委員会開催(3回)
(5) 国際交流推進委員会	200,000	151,800	48,200	75.9%	委員会開催(1回)，NL No.23作成費を含む
(6) 表彰論文選考委員会	70,000	55,000	15,000	78.6%	委員会開催(2回)，表彰論文選考費用
(7) 健康危機支援委員会	198,000	248,116	△50,116	125.3%	委員会開催(3回)，能登半島地震における現地調査
(8) 実践促進委員会	189,000	78,971	110,029	41.8%	委員会開催(3回)
(9) 次世代育成推進委員会	123,000	72,389	50,611	58.9%	委員会開催(2回)，勉強会講師謝金等
(10) 地域看護関連学会合同委員会	0	0	0		
7 選挙運営費	300,000	253,999	46,001	—	
(1) 選挙管理等受付管理費	220,000	220,000	0	—	
(2) 代議員選挙運営費	0	0	0	—	
(3) 役員選挙運営費	50,000	31,619	18,381	—	名簿作成費，印刷費，発送費等
(4) 選挙管理委員会会議費	30,000	2,380	27,620	—	委員会開催費(1回)
8 諸会費	100,000	100,000	0	100.0%	
(1) 日本看護系学会協議会	80,000	80,000	0	100.0%	2024年度会費
(2) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会	20,000	20,000	0	100.0%	2024年度会費
9 雑費	50,000	0	50,000	0.0%	
事業費小計	19,009,000	17,838,512	1,170,488	93.8%	



項 目	2024年度 予 算	2024年度 決 算	差 異 (支出増 △)	執行率	備 考
管理費支出					
1 会議費	300,000	125,521	174,479	41.8%	
(1) 理事会	200,000	56,375	143,625	28.2%	理事会(3回), 監査(1回)
(2) 社員総会	100,000	69,146	30,854	69.1%	社員総会(2回)
2 交通・宿泊費	400,000	34,780	365,220	8.7%	
3 印刷費	400,000	183,984	216,016	46.0%	封筒・年会費
4 発送費	600,000	451,156	148,844	75.2%	
5 ホームページ管理費	1,000,000	759,000	241,000	75.9%	メーリングリスト配信・HP管理費
6 業務委託費	3,500,000	3,240,520	259,480	92.6%	
7 租税公課	70,000	70,000	0	100.0%	法人税
8 雑費	1,640,000	1,370,050	269,950	83.5%	
(1) 振込手数料	40,000	50,050	△10,050	125.1%	振込手数料・振替通知書発行手数料
(2) その他	1,600,000	1,320,000	280,000	82.5%	ホームページ改修費・会員専用サイト構築費等
管理費小計	7,910,000	6,235,011	1,674,989	78.8%	
(C) 当期支出合計	26,919,000	24,073,523	2,845,477	89.4%	
(A-C) 当期収支差額	△805,800	2,192,830	△2,998,630	-	
(B-C) 次期繰越金	32,023,072	35,021,702	△2,998,630	-	

一般社団法人日本地域看護学会 2024年度 財産目録

法人名：一般社団法人日本地域看護学会
事業名：事業全体

2025年3月31日現在(決算)
(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
普通預金(事務センター)	三菱UFJ銀行	一般会計／学会運転資金	24,243,967
郵便振替(年会費等)	ゆうちょ銀行	一般会計／翌事業年度計上年会費等	1,009,230
普通預金(第27回学会集金運転資金)	ゆうちょ銀行	一般会計／第27回学会集金運転資金	49,031
普通預金(第28回学会集金運転資金)	三菱UFJ銀行	一般会計／第28回学会集金運転資金	1,210,528
普通預金(事務センター)	ゆうちょ銀行	一般会計／学会運転資金	10,001,304
未収金	ゆうちょ銀行	一般会計／第27回学会集金運転資金	46
流動資産合計			36,514,106
資産合計			36,514,106
(流動負債)			
未払金	健康危機支援委員会	一般会計／現地調査費等	248,116
未払金	(株)ワールドプランニング	一般会計／研究論文表彰費等	23,760
前受金(年会費等)	ゆうちょ銀行	一般会計／翌事業年度計上年会費等	1,010,000
前受金(第28回学会集金運転資金)	三菱UFJ銀行	一般会計／第28回学会集金運転資金	210,528
流動負債合計			1,492,404
負債合計			1,492,404
正味財産			35,021,702

一般社団法人日本地域看護学会 2025年度 収支予算書

自 2025年4月 1日
至 2026年3月31日

I. 一般会計
1. 収 入 (単位：円)

項 目	2025年度 予 算	2024年度 予 算	2024年度 決 算	備 考
1 年会費	12,970,000	13,680,000	13,370,000	正会員10,000円×1,292人, ユース会員5,000円×10人
2 入会金	500,000	650,000	505,000	5,000円×100人
3 寄付金	0	0	0	
4 第28回学術集会	12,130,000	11,158,000	11,751,141	
5 委員会セミナー参加費	500,000	415,000	444,500	研究活動推進委員会セミナー参加費
6 投稿料(2024年度9月まで)	0	200,000	180,000	5,000円×40件
7 掲載料	50,000	0	0	5,000円×10人
8 雑収入	13,000	10,200	15,712	
(1) 利息	3,000	200	9,112	
(2) 著作権使用料	10,000	10,000	6,600	
(3) その他	0	0	0	
(A) 当期収入合計	26,163,000	26,113,200	26,266,353	
前期繰越金	35,021,702	32,828,872	32,828,872	
(B) 合 計	61,184,702	58,942,072	59,095,225	

2. 支 出 (単位：円)

項 目	2025年度 予 算	2024年度 予 算	2024年度 決 算	備 考
事業費支出				
1 第28回学術集会	12,130,000	12,158,000	12,751,000	
2 理事会セミナー	50,000	50,000	0	
3 会員報告会	50,000	50,000	30,140	
4 研究論文表彰費	150,000	150,000	133,760	論文賞副賞：110,000円, その他：40,000円
5 学会誌	3,650,000	3,650,000	2,650,450	第28巻第1号, 第2号, 第3号
(1) 製作費	3,500,000	3,500,000	2,606,450	
(2) J-STAGE掲載作業費	150,000	150,000	44,000	
6 委員会活動費	2,768,729	2,501,000	1,919,163	
(1) 編集委員会	740,000	750,000	530,451	
(2) 研究活動推進委員会	500,618	500,000	442,063	
(3) 広報委員会	207,000	263,000	258,651	
(4) 教育委員会	208,000	208,000	81,722	
(5) 国際交流推進委員会	200,000	200,000	151,800	
(6) 表彰論文選考委員会	70,000	70,000	55,000	
(7) 健康危機支援委員会	300,000	198,000	248,116	
(8) 実践促進委員会	189,411	189,000	78,971	
(9) 次世代育成推進委員会	353,700	123,000	72,389	
7 選挙運営費	0	300,000	253,999	
(1) 選挙管理等受付管理費	0	220,000	220,000	
(2) 代議員選挙運営費	0	0	0	
(3) 役員選挙運営費	0	50,000	31,619	
(4) 選挙管理委員会会議費	0	30,000	2,380	
8 諸会費		100,000	100,000	
(1) 日本看護学会協議会		80,000	80,000	
(2) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会		20,000	20,000	※2025年度から管理費へ変更
9 雑費	50,000	50,000	0	
事業費小計	18,848,729	19,009,000	17,838,512	



項 目	2025年度 予 算	2024年度 予 算	2024年度 決 算	備 考
管理費支出				
1 会議費	300,000	300,000	125,521	
(1) 理事会	200,000	200,000	56,375	監査会議費・Web会議費用を含む
(2) 社員総会	100,000	100,000	69,146	Web会議費用を含む
2 交通・宿泊費	400,000	400,000	34,780	
3 印刷費	400,000	400,000	183,984	会議資料・封筒・年会費請求書等印刷費
4 発送費	800,000	600,000	451,156	年会費請求書・入会通知・学術集会案内等発送費
5 ホームページ管理費	1,000,000	1,000,000	759,000	管理費, メール配信費用, 会員専用サイト管理費
6 業務委託費	3,500,000	3,500,000	3,240,520	
7 租税公課	70,000	70,000	70,000	法人税
8 諸会費	100,000			
(1) 日本看護系学会協議会	80,000			
(2) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会	20,000			※ 2025年度から管理費へ変更
9 雑費	355,000	1,640,000	1,370,050	
(1) 手数料	73,000	40,000	50,050	振込手数料, 振替通知書発行手数料,
(2) 手数料	202,000			クレジットカード手数料
(3) その他	80,000	1,600,000	1,320,000	登記変更費等
管理費小計	6,925,000	7,910,000	6,235,011	
(C) 当期支出合計	25,773,729	26,919,000	24,073,523	
(A-C) 当期収支差額	389,271	△ 805,800	2,192,830	
(B-C) 次期繰越金	35,410,973	32,023,072	35,021,702	

一般社団法人日本地域看護学会 議事録

2024年度第1回理事会議事録

I. 日 時：2024年5月11日（土）9：00～12：00

II. 会議形態：Zoomによるオンライン会議

配信元：株式会社ワールドプランニング会議室（東京都新宿区神楽坂4-1-1）

III. 出席者：理事長 麻原きよみ

副理事長 岸 恵美子，河野あゆみ

理 事 秋山 正子*，石田 千絵，大森 純子，岡本 玲子，蔭山 正子，
小西かおる，小林 真朝，佐藤 紀子，田口 敦子，田村須賀子，
永田 智子，鳩野 洋子，三森 寧子

監 事 荒木田美香子，宮崎美砂子

事務局 筒井 愛，折田 幸駿

（*印は欠席者）

IV. 議 事：

麻原理事長より，理事の過半数が出席していることから，定款第38条に則り，本理事会の成立が宣言された。

審議事項

1. 2023年度第5回理事会議事録案の承認について（麻原理事長）資料1

2023年度第5回理事会議事録案の内容を確認し，これを承認した。

2. 2024年度社員総会について（麻原理事長・三森理事）資料2

2024年度社員総会は，6月28日（金）17：00～18：00に，TKPガーデンシティ PREMIUM 仙台西口（宮城県仙台市）にて実施する旨を報告した。開催方法については，事前に書面にて決議を取ったうえで，当日，対面で議決結果の確認と承認を行うこととした。議長は麻原理事長，司会は岸副理事長，議事録署名人は麻原議長および三森理事が務めるほか，地域看護関連学会合同委員会委員長の河野理事，表彰論文選考委員会委員長の鳩野理事が欠席のため，代わりに理事長より委員会報告を行うこととした。

また，社員総会および学術集会に伴い開催される諸会議について，出席する会員の旅費の支給は原則行わない旨を改めて確認した。

その他，対面の社員総会に出席する社員があまり多くないことから，次年度はWeb開催とする旨の提案がなされ，これを承認した。

3. 2024年度会員報告会・表彰式について（三森理事）

2024年度会員報告会・表彰式は，6月29日（土）12：30～13：20に，第27回学術集会の会場において実施する旨を報告した。

4. 2023年度事業報告について（三森理事）資料3-1, 3-2

2023年度の事業について，事業報告書案（学会全体および委員会活動）を基に確認した。経年会員数はこれまでに引き続き前年度比99%で推移している旨を報告したほか，論文賞の決定や諸活動について追記したうえで，2024年度社員総会に諮ることとした。

また，委員会活動報告書の項目が統一されていないことから，総務理事にて新たな書式を作成し，活動方針（目的），活動報告，次年度の活動計画の項目ごとに記載する旨を決定した。

5. 2023年度決算案について（小林理事）資料4，当日資料

2023年度決算案について，収支計算書・財産目録・貸借対照表を基に確認した。積立金口座は解約して残金を一般会計の本部口座に移したほか，ペイオフ対策として，一般会計の預金先を分割した旨を報告した。

また，2016～2019年度の次期繰越金と年会費納入率の推移について，資料を基に説明した。次期繰越金は，2019年度15,182,806円に対し，2023年度は32,828,872円と2倍以上に増えていて，理由としてはコロナ禍で会議等がオンライン化したことにより，会議費や交通費等の計上がなかったことが挙げられる。なお，年会費納入率は2019年度94.0%に対し，2023年度94.4%であり，大きな増減はなかった。

6. 2023年度監査について（荒木田・宮崎監事）

5月8日に2023年度の業務および会計の監査をWeb会議にて実施し，適切な活動と管理がされていることを確認した旨を報告した。

7. 2024・2025年度事業計画案について（理事）資料5

2024・2025年度事業計画案について、資料を基に確認した。2025年度の計画を「16. 関連学会との連携による地域看護学領域の概念および教育等に関する検討を行う」に修正したうえで、これを承認した。

8. 2024年度予算案について（小林理事）資料6

2024年度予算案について、資料を基に確認し、これを承認した。

9. 投稿規程の改定案・英訳案について（永田理事）資料7-1, 7-2

投稿規程の改定案について、資料を基に検討し、本日付でこれを承認した。主な修正点は、共著者は非会員でも可とする、論文種別のうち研究報告を取り止める、投稿料を撤廃し非会員の著者が含まれる場合には掲載料を徴収する等であり、運用の時期は編集委員会で決定することとした。

10. 表彰論文および名誉会員候補者の決定について（鳩野理事）資料8

表彰論文選考委員会にて選考した、2023年度表彰論文ならびに名誉会員候補者について、資料を基に確認し、原案どおりこれを承認した。論文賞は、今年度より、代議員の負担軽減と投票率を上げることを目的に、第25巻第1～3号に掲載された16論文を委員の投票により8論文に絞ったうえで、代議員による投票を行った旨を報告した。投票数は40名で投票率は55%であった。また、名誉会員候補者については、村嶋幸代氏が推薦され、これを承認した。

1) 表彰論文（優秀論文1編、奨励論文2編）

(1) 優秀論文

タイトル：男性高齢者の社会活動への参加要因に関する研究（原著）

著者：森永 朗子・原田 春美・緒方久美子・兼岡 秀俊（敬称略）

巻号：第25巻第1号，4-11，2022

(2) 奨励論文1

タイトル：全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動（研究報告）

著者：細谷 紀子・佐藤 紀子・杉本健太郎・雨宮 有子・泰羅 万純（敬称略）

巻号：第25巻第2号，4-12，2022

(3) 奨励論文2

タイトル：独居高齢者の低栄養の高リスクと身体的・心理社会的健康との関連（研究報告）

著者：廣地 彩香・上野 昌江・大川 聡子・根来佐由美（敬称略）

巻号：第25巻第1号，31-39，2022

2) 名誉会員候補者（1名）

氏名：村嶋 幸代氏（湘南医療大学大学院）

11. 次世代育成推進委員会委員の増員について（蔭山理事）資料9

次世代育成推進委員会の活動の増加に伴う委員増員の要望を受け、新たに寺本健太氏（晴海おとしより相談センター）を任命することとし、これを承認した。

12. 災害支援のあり方検討委員会の名称変更について（石田理事）資料10

災害支援のあり方の検討にとどまらず、健康で安全な地域社会の構築のために包括的な支援を検討する、という活動目的に合う新たな委員会名を検討した旨を報告した。2024年度より「健康危機支援委員会」へ名称を変更する旨の提案があり、これを承認した。

13. 第29回学術集会の日程と会場について（佐藤理事）

第29回学術集会は、2026年9月5日（土）～6日（日）の会期で幕張メッセ（千葉県千葉市）にて開催することが提案され、これを承認した。会場費と運営費が高額であることから、今後、開催方法を工夫していく旨を併せて報告した。

14. 入退会者申請者について（三森理事）資料11

入会申請者82人，退会申請者86人（2023年度退会84人，2024年度退会2名）について資料を基に確認し、これを承認した。

15. その他

1) 会員増のための対策について（麻原理事長）

前回理事会にて意見交換を行った会員増のための対策について、入会金を見直してはどうかとの意見があり検討したが、入会金の撤廃が直接入会者数の増加にはつながらないと思われることから入会金は据え置くこととした。ただし、入会申請時に正会員1名からの推薦を受けるプロセスを取り止め、推薦者がいない場合でも入会申請ができるよう変更することとした。

2) 選挙管理委員会(麻原理事長)

今年度、役員選挙を開催することから、選挙管理委員会委員として岸副理事長、石田理事が推薦され、これを承認した。

報告事項

1. 会員数について(三森理事) 資料12

5月1日時点での会員数は、1,373人である旨を報告した。

2. 第27回学術集会について(大森理事) 資料13

プログラム、企業協賛、助成金、広報協力一覧等を基に進捗状況を説明した。5月8日時点の登録数は、演題126件(口演62件、示説64件)、ワークショップ9件(委員会企画3件、その他6件)、前期参加登録339名(会員202名、非会員123名、学生14名)である旨を報告した。また、茶話会の詳細を案内したほか、予め選出された優秀演題賞6演題を閉会式にて表彰する旨を新たに報告した。

3. 第28回学術集会について(石田理事)

第28回学術集会の会期・会場・テーマについて、以下のとおり報告した。

会 期：2025年9月6日(土)～7日(日)

会 場：日本赤十字看護大学(東京都渋谷区)

テーマ：「地域共生社会のこれから ～全ての人がつながりあう社会をつくる～」

4. 委員会報告について

1) 編集委員会(永田理事) 資料14

2月9日に第3回委員会を開催し、投稿規程の改定案、英文の投稿規程案を作成した旨を報告した。

2) 研究活動推進委員会(大森理事) 資料15

2023年度委員会研究セミナー(ライブ配信：3月9日/オンデマンド配信：3月11～24日)について、資料を基に実施報告を行った。参加申込は168名(会員146名、非会員8名、学生・院生14名)であり、そのうちライブ配信の参加者数は64名、オンデマンド配信の視聴者は164名であった。また、アンケート結果も概ね良好であった旨を報告した。

また、2024年度は過去のセミナーのアーカイブ動画の掲載も行う予定である旨を併せて報告した。

3) 広報委員会(田村理事)

東北地方の地域包括支援センター751か所に対して行ったアンケート調査の結果について、30件の回答があった旨を報告した(回収率4.3%)。在宅医療を担う看護職の役割の重要性、地域づくり、ソーシャルキャピタル等への関心が高いことや、学術集会に参加時の動機として、地域包括ケアに関する最新情報や方法・評価のヒントを得たい等の回答が寄せられたことから、第28回学術集会に活用していくこととした。

4) 教育委員会(佐藤理事)

教育委員会の活動とともに、地域看護関連学会合同委員会へ参画し、在宅看護学、地域看護学、公衆衛生看護学の位置づけや、学士課程における教育内容等について検討を続けている旨を報告した。また、第27回学術集会理事会企画セミナーでは、これまでの経緯と含めて話題提供を行う旨を報告した。

5) 国際交流推進委員会(小西理事)

WANS 2024の査読者として、委員の大川聡子氏と山本なつ紀氏の2名が協力した旨を報告した。また、2025年に開催予定のICCHNRの詳細が分かり次第、会員へ案内予定である旨を併せて報告した。

6) 表彰論文選考委員会(鳩野理事)

論文賞の選考ならびに名誉会員候補者の検討を行った旨を報告した。また、本学会誌の投稿論文の約半数が修士論文という特徴があることから、今後、学位論文に対する表彰や、若手研究者や学部学生に対する表彰について検討予定である旨を併せて報告した。

7) 災害支援のあり方検討委員会(石田理事) 資料16

3月8～10日に、令和6年能登半島地震の被災地への現地調査を行った旨、調査結果を基に第27回学術集会にてワークショップを実施予定である旨を報告した。

8) 実践促進委員会(田口理事)

第27回学術集会にて実施予定のワークショップの準備を進めている旨を報告した。

9) 次世代育成推進委員会(蔭山理事)

2月14日に第3回YouTube配信「頑張りすぎず、ゆるやかな協働もあっていい」を行った旨、ショート動画6本を公開した旨、3月21日に開催した勉強会「第1回メタバースの基礎的知識」に23名の参加があった旨を報告した。また、勉強会開催後、55名に対して公開した動画に参加者が映り込んでいたため、関係者間で協議のうえ、映り込みのないよう編集対応を行った旨を併せて報告した。

10) 地域看護関連学会合同委員会(理事) 資料17

3月27日に第5回委員会を開催し、継続して検討中の3つの学問の概念整理と教育内容の作成に関する意見交換、および、第27回学術集会で実施する理事会企画セミナーの構成準備を行った旨を報告した。

また、JANPUモデルコアカリキュラム連絡調整委員会から依頼を受け取り組んでいる「地域社会における健康支援」に関する教育要素案の整理について、資料を基に説明し、追加の依頼に対しても協議しつつ進めている旨を併せて報告した。

5. 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会について

1) 2023年度第2回総会・学術集会(麻原理事長・河野理事) 資料18

3月16日に開催された2023年度第2回総会に、三森理事が出席した旨、また、翌17日に開催された学術集会において、河野副理事長が「日本地域看護関連3学会の取り組みと本会の人材育成の方向性」をテーマに講演した旨を抄録を基に報告した。

2) 2024年度第1回総会(麻原理事長) 資料19

5月25日にWeb開催される2024年度第1回総会に、麻原理事長が出席予定である旨を報告した。

6. その他

次回理事会は10月26日(土)9:00~12:00に開催することとした。

2024年度臨時理事会議事録

I. 日 程 2024年8月19日~22日

II. 方 法 メール審議により実施

III. 役 員 理事:16人, 監事:1人

IV. 議 事 録

1. 新監事選任方法について

1) 新監事について

定款では、監事は2名以内とされているが、安定した体制とするために2名体制としたい。

ついては、新監事は選挙にて次点であった岐阜県立看護大学の北山三津子氏としたい。

任期は退任した監事の任期満了の時まで(2025年度定時社員総会の終結時まで)とする。

2) 新監事選任方法について

臨時社員総会を定款第16条「書面による議決権行使」により開催したい。

事務局より臨時社員総会の開催案内と議決用紙を代議員に送付し、返送を求める。

結果については、理事長から報告する。

承認された場合は、承認日は議決権行使書・委任状の提出期日になる。

2. 宮崎美砂子先生の「お別れ会」への学会からの供花について

上記議案についてメール審議を行い、全会一致でこれを承認した。

2024年度臨時社員総会議事録

I. 日 程 2024年8月30日(金)

II. 方 法 2024年8月26~30日までの期間において、書面により議決権を行使する方法にて実施(定款第16条)

III. 社 員 総社員:66人(議決権行使書:35人, 委任状:6人, 未回答:25人)

IV. 議 事 録

1. 臨時社員総会の目的

宮崎美砂子氏の逝去に伴い、後任の監事を選任するために臨時社員総会を開催した。

議 案：監事選任について

監事候補者：北山三津子氏（岐阜県立看護大学）

理 由：宮崎美砂子氏の後任として、2022年度役員選挙の結果（次点）に基づき、北山氏を監事に任命する。

任 期：2025年度定時社員総会終結時まで

定款第19条「社員総会の決議は、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席社員の過半数をもって行う」に則り、本臨時社員総会は成立した。

2. 議事録署名人の決定

定款第24条「社員総会の議事については、法人法第57条の規定に基づき、議事録を作成し、議長及び出席理事が署名又は記名押印しなければならない」に則り、麻原議長ならびに三森理事が務めることとした。

3. 議案の承認

定款第19条第1項「社員総会の決議は、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席社員の過半数をもって行う」に則り、社員41人の出席・賛成（賛成：41人、否決：0人）が得られたことから、本議案は可決された。

2024年度第2回理事会議事録

I. 日 時：2024年10月26日（土）9：00～12：00

II. 会議形態：Zoomによるオンライン会議

配信元：株式会社ワールドプランニング会議室（東京都新宿区神楽坂4-1-1）

III. 出席者：理 事 長 麻原きよみ

副理事長 岸 恵美子、河野あゆみ

理 事 秋山 正子*、石田 千絵、大森 純子、岡本 玲子、蔭山 正子、
小西かおる、小林 真朝、佐藤 紀子、田口 敦子、田村須賀子、
永田 智子、鳩野 洋子、三森 寧子*

監 事 荒木田美香子、北山三津子

事 務 局 筒井 愛、折田 幸駿

（*印は欠席者）

IV. 議 事：

麻原理事長より、理事の過半数が出席していることから、定款第38条に則り、本理事会の成立が宣言された。

宮崎美砂子氏の逝去に伴い、後任として北山三津子氏の監事就任を報告した。

審議事項

1. 2024年度第1回理事会議事録案の承認について（麻原理事長）資料1

2024年度第1回理事会議事録案の内容を確認し、これを承認した。

2. 2024年度役員選挙について（岸副理事長）資料2

選挙管理委員会の岸委員長、石田副委員長より、委員として井口 理氏（日本赤十字看護大学）、望月由紀子氏（東邦大学）が推薦され、これを承認した。

3. 第28回学術集会の理事会セミナーについて（麻原理事長）資料3

第28回学術集会の理事会セミナーにて宮崎美砂子氏の追悼企画を実施する旨の提案がなされ、これを承認した。

4. 「看護学生のための地域看護ハンドブック：コアカリをふまえて」（仮）の書籍化について（河野副理事長）

「看護学生のための地域看護ハンドブック：コアカリをふまえて」（仮）の書籍を作成することについて説明がなされ、提案どおり書籍化を進めていくことで合意した。また、地域看護関連学会合同委員会を組織する3学会でも共同制作について協議した結果、日本在宅看護学会からは参画を見合わせる旨の回答があり、日本公衆衛生看護学会からは賛同を得られる方向性ではあるものの、製作条件等を伝えたうえでの回答を依頼することとした。

5. 入会金、年会費の改定について（麻原理事長）資料4

会員数の推移と過去8年間の収支・繰越金、会費収入別の収支予測から、入会金、年会費の改定について検討した。学会運営の継続的安定を図りつつ、会員、特に若い年代層の入会を促進するため、2026年度より入会金を廃止することについて総会に諮ることとした。

6. 入退会者申請者について（麻原理事長）資料5

入会申請者20人、退会申請者16人について資料を基に確認し、これを承認した。

7. 次世代育成推進委員会ショート動画の公表について（蔭山理事）資料6

次世代育成推進委員会ショート動画の公表について、資料を基に動画公開に関する取り決め等を確認し、これを承認した。

報告事項

1. 宮崎美砂子先生お別れの会について（麻原理事長）

宮崎美砂子先生お別れの会が10月12日に千葉大学あひのほな記念講堂にて執り行われた旨を報告した。

2. 会員数について（麻原理事長）資料7

10月22日時点での会員数は、1,356人である旨を報告した。

3. 2024年度臨時理事会・臨時社員総会について（麻原理事長）資料8

2024年度臨時理事会・臨時社員総会を书面開催し、後任の北山監事の選任ならびに宮崎美砂子先生お別れの会への学会からの供花について、全会一致で承認された旨を報告した。

4. 第27回学術集会（大森理事）資料9

第27回学術集会について資料を基に報告した。参加人数1,106人、参加者専用ページのログイン数2,564回、Webアクセス数35,489回、動画再生数5,131回であった旨、アンケート結果、収支決算書の概算について報告した。

5. 第28回学術集会（石田理事）資料10

第28回学術集会（2025年9月6日（土）～7日（日）／日本赤十字看護大学）について、資料を基にプログラム案等を報告した。

6. 委員会報告について

1) 編集委員会（永田理事）

6月29日に開催した拡大編集委員会での意見を受け、迅速査読と随時査読について検討することとした旨、また、12月発刊予定の第27巻第3号にて、宮崎美砂子先生の追悼文を掲載する旨を報告した。

2) 研究活動推進委員会（大森理事）資料11

2024年度委員会研究セミナーについて、2025年3月15日に「地域看護研究に生成AIをいかに活用するか」をテーマに、平和也氏（京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻）を講師に迎えて開催する旨を報告した。

3) 広報委員会（田村理事）

Webアカウントの運用方針やソーシャルメディアポリシーに関する規程を設けることについて検討予定である旨を報告した。

4) 教育委員会（佐藤理事）

地域看護関連学会合同委員会での協議内容に連動し、10月5日に対面で委員会を開催し、具体的な教育内容について検討した旨を報告した。

5) 国際交流推進委員会（小西理事）

10月22日に委員会を開催し、2025年4月に発行予定のニュースレターの企画内容を検討した旨を報告した。

また、ICCHNRについて、2025年5月にロンドンで開催予定である旨を報告した。

6) 表彰論文選考委員会（鳩野理事）

5月31日に委員会を開催し、学会誌の論文種類が変更となることに伴い、表彰論文の選考基準を併せて修正することとした旨を報告した。

7) 災害支援のあり方検討委員会（石田理事）

能登半島地震に関連してGIS等で発信したデータを、委員会報告として学会誌へ掲載する旨を報告した。また、活用できる情報をHPにも随時アップロードしていく旨を併せて報告した。

8) 実践促進委員会（田口理事）資料12

資料を基に、第27回学術集会にて開催したワークショップについて報告した。

9) 次世代育成推進委員会(蔭山理事) 資料13

第27回学術集会にて開催したワークショップについて、LINEオープンチャットを通じて来場した人を含めた約20名の参加があり、積極的な交流がなされた旨、第28回学術集会でもワークショップ開催を予定している旨を報告した。

また、継続中の委員会活動として、LINEオープンチャットの参加者が10月8日時点で72名となった旨、3回予定しているライブ企画の進捗状況(第1回:11月6日「コミュニティアセスメントって最近はどうなってるの」、第2回:12月「実践・研究者が中堅になって思うこと」、第3回:2025年2月「メタバース導入の効果と課題に関するディスカッション」)、ショート動画の作成について、併せて報告した。

10) 地域看護関連学会合同委員会(理事) 資料14

参画中の3学会が考える看護師養成のために必要な教育内容や、モデル・コア・カリキュラムに関する検討事項の進捗状況について、資料を基に説明した。

7. 2024年度中間決算について(小林理事) 資料15

2024年度中間報告を基に、収入の執行率が92%、事業費支出の執行率が79%である旨を報告し、年度計画に基づく適正な支出執行を呼びかけた。また、次回理事会にて2025年度予算案を作成する旨を報告した。

8. その他

1) 専門看護師の個人審査変更について(麻原理事長) 資料16

日本看護協会が実施した専門看護師の個人審査変更についての説明会に麻原理事長が出席した旨を報告した。2026年度より認定審査が変更となることから、関連する学会に対して、学術集会や研修会等における修了書の発行に協力要請があった旨を報告した。

2) 次回理事会について(麻原理事長)

2024年度第3回理事会について、2025年2月8日(土)13:00~16:00にWeb開催することとした。

2024年度第3回理事会議事録

I. 日 時: 2025年2月8日(土)13:00~16:00

II. 会議形態: Zoomによるオンライン会議

配信元: 株式会社ワールドプランニング会議室(東京都新宿区神楽坂4-1-1)

III. 出席者: 理事長 麻原きよみ

副理事長 岸 恵美子, 河野あゆみ

理 事 秋山 正子*, 石田 千絵*, 大森 純子, 岡本 玲子, 蔭山 正子,
小西かおる, 小林 真朝, 佐藤 紀子, 田口 敦子, 田村須賀子,
永田 智子, 鳩野 洋子, 三森 寧子

監 事 荒木田美香子, 北山三津子*

事務局 江頭麻衣子, 折田 幸駿, 源田紗也子

(*印は欠席者)

IV. 議 事:

麻原理事長より、理事の過半数が出席していることから、定款第38条に則り、本理事会の成立が宣言された。

審議事項

1. 2024年度第2回理事会議事録案の承認について(麻原理事長) 資料1

2024年度第2回理事会議事録案の内容を確認し、これを承認した。

2. ウェブサイト管理運用規程案ならびにソーシャルメディア管理運用規程案について(田村理事) 資料2

広報委員会にて作成したウェブサイト管理運用規程案ならびにソーシャルメディア管理運用規程案について、資料を基に内容の確認をした。検討事項としていたソーシャルメディア管理運用規定案(公式アカウント)第4条(1)YouTube内の3)担当について、次世代育成推進委員会と決定した。また、(情報発信の運用原則)第5条(3)については「第1号から第2号までのものから指示を受けた会員または本会事務センター担当者」と決定し、修正することとした。

また、(公式アカウント)第4条(1)YouTubeについて、現在は学会事務運用と同じGoogleアカウントを使用していることから、

今後これをYouTubeの運用アカウントとし、学会の事務用アカウントは別途作成することとし、これを（情報発信の運用原則）第5条において当アカウントは学会としての情報発信に限る規程であることと、会員個人による不適切な発信があった際には（公式アカウント利用）第9条に記載の事項を適用とすることとした。

次回理事会までに規程の内容を整え、報告することとした。

3. 迅速査読について（永田理事）資料3

編集委員会より迅速査読について資料を基に3回の投稿締切日に合わせて運用を開始し、希望のあった投稿に対しては編集委員会を待たずに編集委員長と副編集委員長にて査読委員を決定する。また、査読は1週間を目安とし、30日以内に査読結果を通知することを確認した。運用開始に伴い、懸念される査読者への負担について、理事より査読者には事前に迅速査読の引き受け可否を伺う必要があるのではないかという意見があがった。委員長より今後査読委員を増員することと、拡大編集委員会などで査読の協力を仰ぐ必要があることが述べられた。

意見があがった箇所を修正し、編集委員会にて確認のうえ次回の理事会に諮ることとした。

4. 2025・2026年度事業計画案について（麻原理事長）資料4

2025・2026年度事業計画案について資料を基に確認し、これを承認した。

5. 2025年度予算案について（小林理事）資料5

2025年度予算案について、資料を基に確認した。次回理事会において予算案全体を再度確認し、2025年度社員総会に諮ることとした。

6. 入退会者申請者および年会費滞納者について（三森理事）資料6

入会申請者12人、退会申請者30人について資料を基に確認し、これを承認した。また、年会費滞納者について、3年滞納の6人は年度内に納付がない場合には退会手続きを取ることにし、これを承認した。

7. その他

1) JANA 2025-2026年度役員選挙について（麻原理事長）

JANA役員選挙について、本学会の会員より、理事は岸恵美子氏、田口敦子氏、田高悦子氏の3名、監事は荒木田美香子氏に投票することとした。

2) JANA アンケート調査について（麻原理事長）

JANA看護に関するデータベース及びデータサイエンス人材に求められる要件及びニーズに関する調査について資料を基に確認した。調査項目が多く、理事会で合意を得ながら意見を集約することが難しいことから、麻原理事長に一任し、麻原理事長より回答することとした。

報告事項

1. 会員数について（三森理事）資料9

2月3日時点での会員数は、1,406人である旨を報告した。

2. 2024年度会員報告会について（三森理事）資料9

5月の理事会にて報告することとした。

3. 第28回学術集会について（石田理事欠席のため代理にて麻原理事長）資料10

第28回学術集会（2025年9月6～7日／日本赤十字看護大学）の進捗について、資料を基に概要を説明した。開催方法について、メインプログラムは現地開催と10月末までのオンデマンド配信を予定している旨を報告し、理事に学術集会の広報、演題の査読、演題の座長の推薦を依頼する旨をお願いした。また、査読の依頼に使用する代議員の連絡先は事務局から石田理事へ連絡をすることとした。

4. 2024年度事業報告（全体報告）について（三森理事）資料11

2024年度の事業について、事業報告書案を基に確認した。年度内に予定している活動について追記する等、全体を再度確認し、2025年度社員総会にて報告することとした。

5. 委員会報告について

1) 編集委員会（永田理事）資料12-1

今年度は投稿規程を改め、次号より投稿原稿の種類から研究報告をなくしたことにより、原著論文の増加も見込まれる旨を報告した。

2) 研究活動推進委員会(大森理事) 資料12-2

2024年度研究セミナー(3月15日)は「地域看護研究に生成AIをいかに活用するか」をテーマとし、ライブ配信と3月30日までオンデマンド配信を実施予定とする旨の報告があった。また、会員専用サイト開設後、研究セミナーのアーカイブ動画を会員専用サイト内に掲載する予定である旨を報告した。

3) 広報委員会(田村理事) 資料12-3

第28回学術集会の広報として、チラシを配布するだけでなく、今後の参考にアンケート配布も行っている旨を報告した。

4) 教育委員会(佐藤理事) 資料12-4

教育委員会の活動に加え、地域看護関連学会合同委員会にて、在宅看護学、地域看護学、公衆衛生看護学の言語化と関係性、学士課程における看護師養成のために必要な地域看護の教育内容、モデルコアカリキュラム案への提案について検討を重ねている旨を報告した。

また、2024年度地域関連看護学会合同委員会で作成された「学資課程における看護師要請のために必要な地域関連看護教育内容」(仮)の内容を整え、次年度は具体的な活用方法を検討していくこととした。

第28回学術集会では、委員会としてワークショップを企画し、地域関連看護教育内容について会員への普及方法、内容検討の場を設ける予定である旨を報告した。

5) 国際交流推進委員会(小西理事) 資料12-5

英文ニュースレター No.24について、特集テーマを「認知症政策としての共生社会創出の必要性」とし、作成準備中である旨を報告した。

6) 表彰論文選考委員会(鳩野理事) 資料12-6

表彰論文の選考を実施している旨と名誉会員の推薦については次回委員会時に検討する旨を報告した。

7) 健康危機支援委員会(石田理事欠席のため代理にて麻原理事長) 資料12-7

令和6年能登半島地震の発生により、定点観測を中心とした現地調査(保健所、保健センター、避難所等能登半島全体)を実施する旨を報告した。4月末までに学会としてどのような支援ができるのかGISを用いて委員会にて検討し、報告することとした。

8) 実践促進委員会(田口理事) 資料12-8

実践者と教育研究者をつなぐワークショップを開催し、今後も情報共有のため、ワークショップを実施する旨を報告した。

9) 次世代育成推進委員会(蔭山理事) 資料12-9

YouTube配信におけるコンテンツの著作権は本会に帰属する等の留意事項を作成した旨とLINEオープンチャットの登録者向けの限定企画を予定している旨を報告した。

10) 地域看護関連学会合同委員会(河野理事) 資料12-10

今年度は幹事学会として計4回の会議を運営し、在宅看護学、地域看護学、公衆衛生看護学の位置づけや、「学士課程における看護師養成に必要な地域看護関連教育内容」(仮)について、3学会で検討を重ねている旨を報告した。また、合同委員会による出版物刊行を予定していたが種々検討の上、今回は中止とした旨を報告した。

11) 選挙管理委員会(岸理事) 資料12-11

2024年度役員選挙について、資料を基に報告した。2025年1月23日に開票が行われ、投票率は84.62%(選挙人65人、投票数55人)であり、14人の役員を選出した旨を報告した。また、理事・監事の両方に当選した際、現状の規程では、理事の当選を優先させているが、今後は、どちらを優先するかについて、役員選出規程の改定も検討していくこととした。

6. その他

1) JANA(麻原理事長)

1月15日の意見交換会がオンラインで実施され、麻原理事長が出席した旨を報告した。

2) 全公連(麻原理事長)

3月15・16日に開催される全公連の2024年度学術集会では総会と各学会での発表がある旨を報告した。2024年度学術集会では本会の発表はなく、総会のみ出席を予定している旨を報告した。

3) 次回理事会について

次回理事会について、2025年5月24日(土)13:00~16:00にWebにて実施することとした。

社員総会について、2025年6月14日(土)10:00~Web開催とすることとした。

2025年度からの理事・監事候補者による懇談会議事録

I. 日 時：2025年5月24日（土）12：00～13：00

II. 会議形態：Zoomによるオンライン会議

配信元：株式会社ワールドプランニング会議室（東京都新宿区神楽坂4-1-1）

III. 出席者：理事候補者 麻原きよみ、石橋みゆき、石丸 美奈、和泉比佐子、
牛尾 裕子、岡本 玲子、岸 恵美子、河野あゆみ、
佐藤 紀子、田高 悦子、永田 智子、春山 早苗*

監事候補者 荒木田美香子、北山三津子*

事務局 折田 幸駿、源田紗也子、江頭麻衣子

（*印は欠席者）

IV. 議 事

1. 2025～2026年度理事・監事候補者について

2025～2026年度の理事候補者12人および監事候補者2人について、資料を基に確認した。新役員は2025年度社員総会（2025年6月14日開催）での承認を経て任期開始となる。

2. 担当役員の選出について

1) 理事長（1人）

河野あゆみ氏を選出した。

2) 副理事長（2人）

岸恵美子氏・永田智子氏の2人を選出した。

3) 推薦理事（4人以内）

有本 梓氏（横浜市立大学大学院）、成瀬 昂氏（SOMPO インスティテュートプラス株式会社）、平山司樹氏（訪問看護ステーションかつさい）の3人が推薦された。

平山氏が非会員であることから、入会手続き後にメール審議にて入会を承認することとした。総務担当理事については理事長となる河野氏に候補者の検討と推薦理事への就任の打診について委任することとした。また、定款には推薦理事や委員の会員資格に関係する直接的な記載はなく、委員会規程等も作成していないことから、今後、新理事会にて検討をすることとした。

4) 総 務

推薦理事から選出することとした。

5) 会 計

石橋みゆき氏を選出した。

3. 委員会委員長の選出について

理事の委員会委員長ならびに委員就任について検討し、以下のとおり選出した。

各委員会の副委員長と委員については各委員長が検討し、2025年度社員総会後に新役員により開催する理事会において承認することとした。

1) 編集委員会

委員長：石丸美奈氏

2) 研究活動推進委員会

委員長：岡本玲子氏

3) 広報委員会

委員長：有本 梓氏

4) 教育委員会

委員長：佐藤紀子氏

5) 国際交流推進委員会

委員長：田高悦子氏

6) 表彰論文選考委員会

委員長：麻原きよみ氏

7) 健康危機支援委員会

委員長：理事候補者である春山早苗氏に就任を打診する。

8) 実践促進委員会

委員長：牛尾裕子氏，委員：推薦理事候補者の平山司樹氏に就任を打診する。

9) 次世代育成推薦委員会

委員長：和泉比佐子氏，委員：推薦理事候補者の成瀬 昂氏に就任を打診する。

4. その他

1) 委員会の次年度活動計画について

委員会体制の大幅な変更により現委員長から新委員長への引き継ぎが必要ではないかと意見があったことから，6月4日までに，新旧の委員長にて引き継ぎと社員総会資料の「次年度計画」の作成を行い，メール審議に諮ることとした。

2) 次回理事会について

2025年度社員総会を経たのち，新役員による理事会（2025年度第2回理事会）の開催は2025年7月20日（日）15：00～18：00にWebにて実施することとした。

2025年度第1回理事会議事録

I. 日 時：2025年5月24日（土）13：00～16：00

II. 会議形態：Zoomによるオンライン会議

配信元：株式会社ワールドプランニング会議室（東京都新宿区神楽坂4-1-1）

III. 出席者：理事長 麻原きよみ

副理事長 岸 恵美子，河野あゆみ

理 事 秋山 正子*，石田 千絵，大森 純子，岡本 玲子，蔭山 正子，
小西かおる，小林 真朝，佐藤 紀子，田口 敦子，田村須賀子，
永田 智子，鳩野 洋子，三森 寧子

監 事 荒木田美香子，北山三津子*

事務局 折田 幸駿，源田紗也子，江頭麻衣子

（*印は欠席者）

IV. 議 事：

麻原理事長より，理事の過半数が出席していることから，定款第38条に則り，本理事会の成立が宣言された。

審議事項

1. 2024年度第3回理事会議事録案の承認について（麻原理事長）資料1

2024年度第3回理事会議事録案の内容を確認し，これを承認した。

2. 細則の改正について（麻原理事長）資料2

2024年度第2回理事会において審議を行った入会金の廃止に伴い，細則改正案を作成した旨を報告した。定款第9条（入会金，および会費）を事務センターより，専門家に確認し入会金の廃止について定款の変更は必要がない旨と，細則の改正を行った上で入会金の廃止を進める旨を報告した。また，現在の細則にはユース会員会費，賛助会員会費の明記がなかったことから，これを細則に追記し，2025年度社員総会に諮ることとした。

3. 2025年度社員総会について（三森総務）資料3

資料を基に2025年度社員総会は，6月14日（日）11：00～12：00にオンラインにて実施する旨を報告した。開催方法については，当日Zoomの投票機能を使用し，決議を行うこととした。議長は麻原理事長，議事録署名人は麻原議長および三森理事，議事録作成は事務局が務めることとし，議決内容等を確認し，これを承認した。

4. 2024年度事業報告について（三森総務）資料4

1) 全体報告 2024年度の事業について，資料を基に確認した。災害に対する支援のあり方の表記を「災害等の視点」と変更することとした。

2) 委員会報告 2024年度の委員会について，資料を基に確認した。各委員会より前回理事会から追加となった活動内容を報告した。

5. 2024年度決算案について（小林会計理事）資料5

2024年度決算案について、収支計算書・財産目録・貸借対照表を基に確認した。年会費の入金率は昨年より2%上がり、事業費の執行率は93.8%、管理費の執行率は78.8%であり、全体としての執行率は89.4%となった。繰越金については35,021,702円であった。なお、年度内に決算ができなかった項目は未払金として計上しており、年度内の報告・経費精算に協力して欲しい旨を説明した。財産目録に記載の未払金について、健康危機支援委員会のみが明記されていたが、未払金にはほかの事項も含まれることから、項目名を追記し2025年度社員総会へ諮ることとした。

6. 2024年度監査について（荒木田監事）資料6

2024年度の業務および会計の監査について、5月15日にWeb会議にて実施した旨と第27回学術集会の会計監査を同時に行った旨を報告した。また、決算書にてJ-STAGEへの掲載作業費の執行率が29.3%と低いことから掲載本数の少なさについての指摘があり、投稿数、採択率の低下は今後改善が必要な課題となることを確認した。これについて永田編集委員長より投稿料を廃止したことで今後は投稿数の増加が期待できる旨と、採択率についても2024年度より論文種別から研究報告をなくしたことで、採択率を上げる取り組みをしている旨を説明した。査読審査の評価基準等について編集委員会、拡大編集委員会で引き続き検討することとした。

7. 2025・2026年度事業計画案について（麻原理事長）資料7

2025・2026年度事業計画案について、資料を基に内容を確認した。委員会報告書内、資料4の次年度活動計画については、現委員長と新委員長による引継ぎを行った上で内容を作成してほしい旨と、メール審議で承認する旨を説明した。

また、新理事候補者による懇談会にて、新理事会の推薦理事に非会員の指名があり、定款に委員の会員資格に関する直接的な記載はなく、委員会の規程等も作成していないことから新理事会にて規程等の作成を検討するほか、今期の推薦理事候補の入会については、メール審議で承認を進めていくこととした。

8. 2025年度予算案について（小林理事）資料8

2024年度3回理事会にて審議された予算より変更点はない旨を報告した。項目の変更について、諸会費（日本看護系学会協議会および全国公衆衛生関連学協会連絡協議会の年会費）を事業費から管理費と変更する提案がなされ、これを承認し項目の誤りを修正したものを2025年度社員総会資料とすることとした。

9. 表彰論文および名誉会員候補者の決定について（鳩野理事）資料9

表彰論文選考委員会にて選考した。2024年度表彰論文について、資料を基に確認し、原案どおりこれを承認した。論文賞は、昨年度に引き続き、第26巻第1～3号に掲載された16論文を委員の投票により10論文に絞ったうえで、代議員による投票にて決定した旨を報告した。投票数は49名で投票率は75.4%であった。また、名誉会員候補者として、宮崎美砂子氏が推薦されたが、定款より物故者の推薦については、名誉会員と見なすことが難しいのではないかとこの意見があがったことから、定款第5条（会員）と定款第7条（退会）より、物故者は退会となる旨を確認したため、引き続き審議することとした。なお、名誉会員の推薦については、次期理事会で審議することを承認した。

1) 表彰論文（優秀論文1編、奨励論文2編）

(1) 優秀論文

タイトル：10代初産母親の逆境的小児期体験（ACE）の特徴と育児中の心身の健康、経済的状況との関連（原著）

著者：大川 聡子、眞壁 美香、金谷 志子、上野 昌江

巻号：26（1）、4-12、2023

(2) 奨励論文1

タイトル：精神障がいを抱える親の妊娠期から学童期における支援ニーズ（研究報告）

著者：加藤 ねね、蔭山 正子、岩崎 りほ

巻号：26（1）、32-40、2023

(3) 奨励論文2

タイトル：乳幼児虐待予防に向けて市町村保健師が支援の必要な「気になる親子」を判断するためのアセスメントの視点（研究報告）

著者：飯塚 瑞季、大澤真奈美、行田 智子

巻号：26（3）、31-42、2023

10. 第30回学術集会会長について（麻原理事長）

第30回学術集会大会長は大川聡子理事に決定した旨を報告した。

11. 入退会者申請者について（三森総務）資料10

入会申請者67人、退会申請者73人について資料を基に確認し、これを承認した。

12. その他

1) 第23回SGH看護特別賞候補者の推薦について（麻原理事長）資料11

がん看護に関する先駆的な研究ならびに実践を行う推薦対象者がいる場合は、6月10日までに推薦書と業績を麻原理事長に報告をする旨を資料を基に確認した。

2) 日韓交流について（麻原理事長）資料12

次期、韓国地域看護学会理事への就任予定者と共に研究を行っている有本梓代議員より、以前、行っていた日韓地域看護学会を再開したいことから、日本の地域看護学会理事長の紹介をしてほしい旨の連絡があった旨を報告した。先方へは理事長が代わる旨を伝え、過去に、日韓合同学会を開催していたが韓国地域看護学会より交流を終了したい旨の連絡があったことから、交流を終了した経緯がある旨を報告した。なお、今後の日韓交流については次期理事会へ引き継ぐこととし、これを承認した。

3) 認定看護師・専門看護師の個人審査変更について（麻原理事長）資料13

看護協会より専門看護師、認定看護師更新・再認定の方法が変更となった旨の連絡があり、資料を基に確認した。本学会においても第28回学術集会より研修修了証を発行予定である旨を報告した。

4) 日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会後援について（麻原理事長）資料14

三役会の話し合いにより、日本ヒューマンヘルスケア学会第8回学術集会の後援を決定した旨を報告した。また、本会会員は会員価格で日本ヒューマンヘルスケア学会第8回学術集会に参加することができる旨をメールマガジンで配信することを承認した。

報告事項

1. 会員数について（三森理事）資料15

会員数の年度比は99%の推移となり、5月24日時点での会員数は1,252人である旨を報告した。入会金をなくすことで今後は会員数の増加が見込める旨を説明した。

2. 第28回学術集会について（石田理事）資料16

プログラム、協賛企業、後援団体、助成金について、資料を基に進捗状況を説明した。5月7日時点の登録数は、演題103件（口演33件、示説70件）、ワークショップ7件である旨の報告と初日に予定している懇親会への参加を案内した。

「教育活用特別参加登録制度」について、学校単位で登録料（30,000円）を支払うことにより、オンデマンドコンテンツを授業で視聴可能とする制度を設ける案について過去の学術集会における学生の参加事例を考慮し、教育活用特別参加登録制度を設ける旨を承認した。

認定看護師・専門看護師の研修を第28回学術集会より開始する予定であることを報告した。現在、研修の対象に対面を1コンテンツ、オンラインを11コンテンツ予定している旨を説明した。研修修了証の発行について運営事務局であるプロコムにて、システム構築費80,000円の経費がかかる旨の説明があり、これを承認した。また、修了証の発行に関しては受講者の自己申告のみで発行し、1件150円の発行費を受講者負担とする旨を説明した。

3. 第29回学術集会について（佐藤理事）資料17

第29回学術集会の会期・会場・テーマについて、以下のとおり報告した。

会 期：2026年9月5日（土）～6日（日）

会 場：幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）

テーマ：希望ある未来を切り開く地域看護の新機軸

テーマを基にしたコンセプト、プログラムを報告した。また、会場費が高額であることから、非会員の参加費を前期12,000円、後期13,000円とする旨を報告した。

4. 委員会報告について

1) 編集委員会（永田理事）

2024年度第3回編集委員会で審議をしていた迅速査読について、今期は検討を見送り、次期委員会に引き継ぐ旨を報告した。

2) 研究活動推進委員会（大森理事）資料18

2024年度委員会研究セミナー（ライブ配信：3月15日、オンデマンド配信：3月18～30日）について、資料を基に実施報告を行った。参加申込は172名（会員146名、非会員12名、学生・院生14名）であり、アンケート結果からもテーマと内容が好

評であった旨を報告した。

5. 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会について

1) 2024年度第2回総会・学術集会(麻原理事長)資料21

3月16日に開催された2024年度第2回総会に、田高代議員が出席した旨を報告した。

また、今年度に引き続き次年度も田高代議員は全国公衆衛生関連学協会連絡協議会副世話人となる旨を報告した。

6. 日本看護系学会協議会について(麻原理事長)

1) 役員選挙結果について

本会から岸副理事長を理事として推薦し、理事に選出された旨を報告した。

2) Choosing Wiselyキャンペーンについて(麻原理事長)資料22

JANAよりChoosing Wiselyキャンペーンへの協力依頼について案内があり、資料を基に説明した。その内容は患者と医師・看護師が本当に役に立つ医療を賢明に選択、判断をする際に必要な項目を5項目選出し、各学会HPなどに明示するものと説明した。5項目について本会ではJANA、他学会の動向を参考に今後の進め方を検討していく旨を報告した。

3) 「看護に関するデータベース及びデータサイエンス人材」に求められる要件及びニーズに関する調査結果について(麻原理事長)資料23

調査方法：Webアンケートについて

回答期間：2024年11月～2025年3月3日

アンケート結果から多くの学会において、データベースの構築や利用を難しいと回答している旨を報告した。

7. その他

1) 全国保健師教育機関協議会からのDVD等の提供について(麻原理事長)資料24

「健康危機管理の保健師活動：アドバンスド版」の教材を事務局で保管しており、使用したい会員は事務局まで連絡をいただく旨をメールマガジンにて周知することを承認した。

2) 次回理事会について

次回理事会について、2025年7月20日(日)15:00～18:00にWebにて実施することとした。

2025年度社員総会議事録

I. 日 時 2025年6月14日(土)11:00～12:30

II. 場 所 Zoomによるオンライン会議
配信元：株式会社ワールドプランニング会議室
(東京都新宿区神楽坂4-1-1)

III. 社 員 総社員：66人
(出席票：30人、委任状：30人、未回答：6人／当日出席者：26人)

IV. 議 事 録

岸副理事長より、総社員66名のうち、出席者26名、委任状30名(合計56人)であることから、定款第19条「社員総会の決議は、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席社員の過半数をもって行う」に則り、本社員総会の成立が宣言された。

また、定款第18条に則り、麻原理事長が議長を務めることについて確認した。

1. 開会の辞

麻原理事長より、開会の辞が述べられた。

2. 議事録署名人の決定

定款第24条に則り、麻原議長および三森理事が務めることとした。

3. 議題の承認

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1) 第1号議案：2024年度事業報告について | (賛成：56人、否決：0人)【可決】 |
| 2) 第2号議案：2024年度収支決算について | (賛成：56人、否決：0人)【可決】 |
| 3) 第3号議案：2024年度監査報告について | (賛成：56人、否決：0人)【可決】 |
| 4) 第4号議案：2025・2026年度事業計画について | (賛成：56人、否決：0人)【可決】 |

5) 第5号議案：2025年度収支予算について (賛成：56人, 否決：0人) 【可決】

6) 第6号議案：2025～2026年度理事・監事の選任について

(賛成：56人, 否決：0人) 【可決】

7) 第7号議案：細則の改正について

(賛成：56人, 否決：0人) 【可決】

定款第19条第1項「社員総会の決議は、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席社員の過半数をもって行う」に則り、社員56人の出席・賛成が得られたことから、第1～7号までのすべての議案は可決された。

4. 報告事項

- ・2025～2026年度理事・監事より就任のあいさつがあった。
- ・第28回学術集会について、石田千絵学術集会長より、2025年9月6～7日の会期で日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）およびWeb配信のハイブリッド形式にて開催する旨を報告した。
- ・第29回学術集会について、佐藤紀子学術集会長より、2026年9月5～6日の会期で幕張メッセ国際会議場（千葉県）にて開催する旨を報告した。
- ・第30回学術集会について、大川聡子学術集会長より、2027年に関西にて開催する旨を報告した。

5. 意見交換

出席社員による意見交換を行った。

6. 閉会の辞（麻原理事長）

麻原理事長による閉会の辞をもって、本社員総会を終了した。

編集後記

このたび、第12期編集委員長を務めることとなりました。地域に根ざした看護実践の知見を科学的に積み重ねていくこの学会誌を、会員のみなさまといっしょに、より魅力ある、信頼されるものにしていきたいと考えています。

本号(第28巻第2号)では、原著論文2本、研究報告6本に加えて、研究活動推進委員会および地域看護関連学会合同委員会からの報告を掲載しています。いずれの論文も、地域看護の実践や教育、政策に深く関わる重要なテーマを扱っており、学術的・社会的にも意義の高い内容です。

看護文献専門データベース「最新看護索引Web」によれば、看護関連の学会誌・雑誌の収載誌数は946誌(2025年8月現在)にもなります。さらに、国際ジャーナルも増え、研究成果の発表先は多様化しています。そのなかで、本誌を投稿先を選んでいただくためには、質の高い論文と、読者にとって魅力的な発信を続けることが不可欠だと感じています。

まず取り組みたい課題として、査読プロセスの迅速化があります。研究成果をタイムリーに世に出すことは、学術的な信頼を高めるだけでなく、実践現場への還元にもつながります。編集委員や査読者のみなさまと相談しながら、よりよい仕組みづくりを進めていきたいと思っています。

また、本学会誌では、地域看護上の新たな知見を科学的に提示しており、学術や社会にとって意義の高い論文はすべて「原著」として扱うこととしています。投稿にあたっては、「本研究の新たな知見はなにか」を明確に示していただけると幸いです。

みなさまの積極的な投稿をお待ちしています。

(石丸 美奈)

「日本地域看護学会誌」投稿論文の締切について

投稿論文は随時受け付けますが、1月20日、5月20日、9月20日で締め切り、審査を行います。ご投稿をお待ち申し上げております。

日本地域看護学会誌 第28巻第2号

Journal of Japan Academy of Community Health Nursing Vol.28, No.2

発行日 2025年8月20日

発 行 一般社団法人日本地域看護学会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1 (株)ワールドプランニング内

E-mail: jachn@worldpl.jp

<https://www.jachn.net>

発売元 株式会社 ワールドプランニング

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1

Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757

E-mail: wp-office@worldpl.co.jp <https://worldpl.co.jp>

振替口座: 00150-7-535934